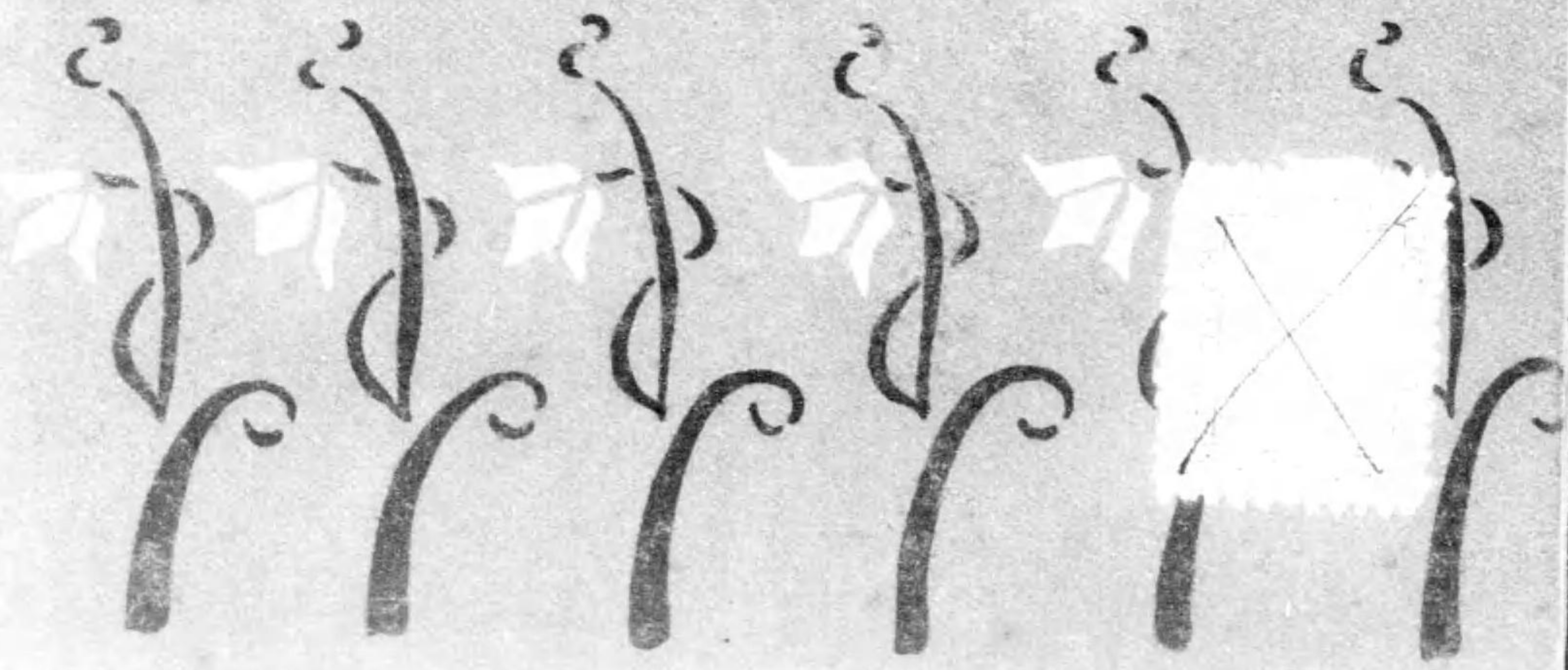




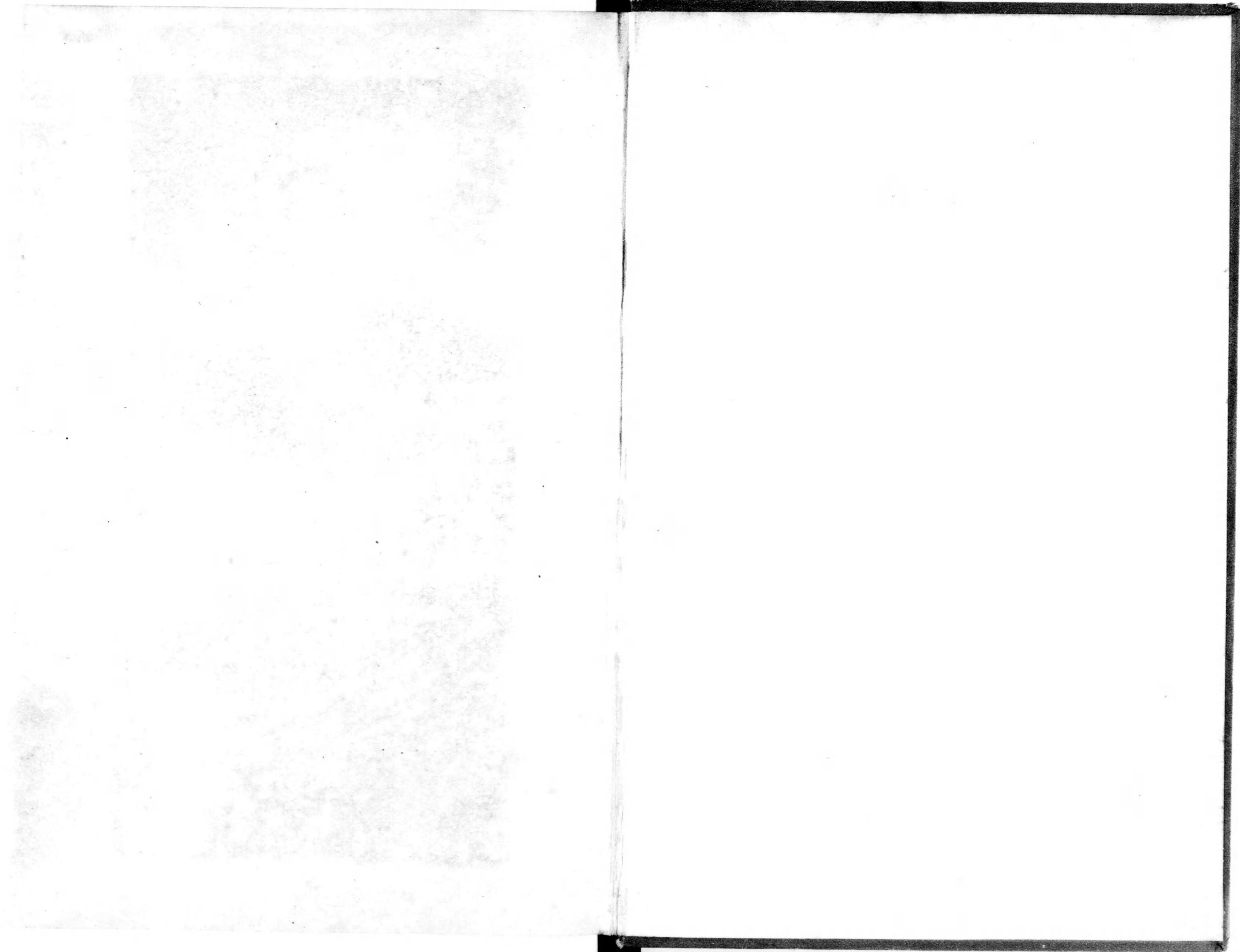
119-55



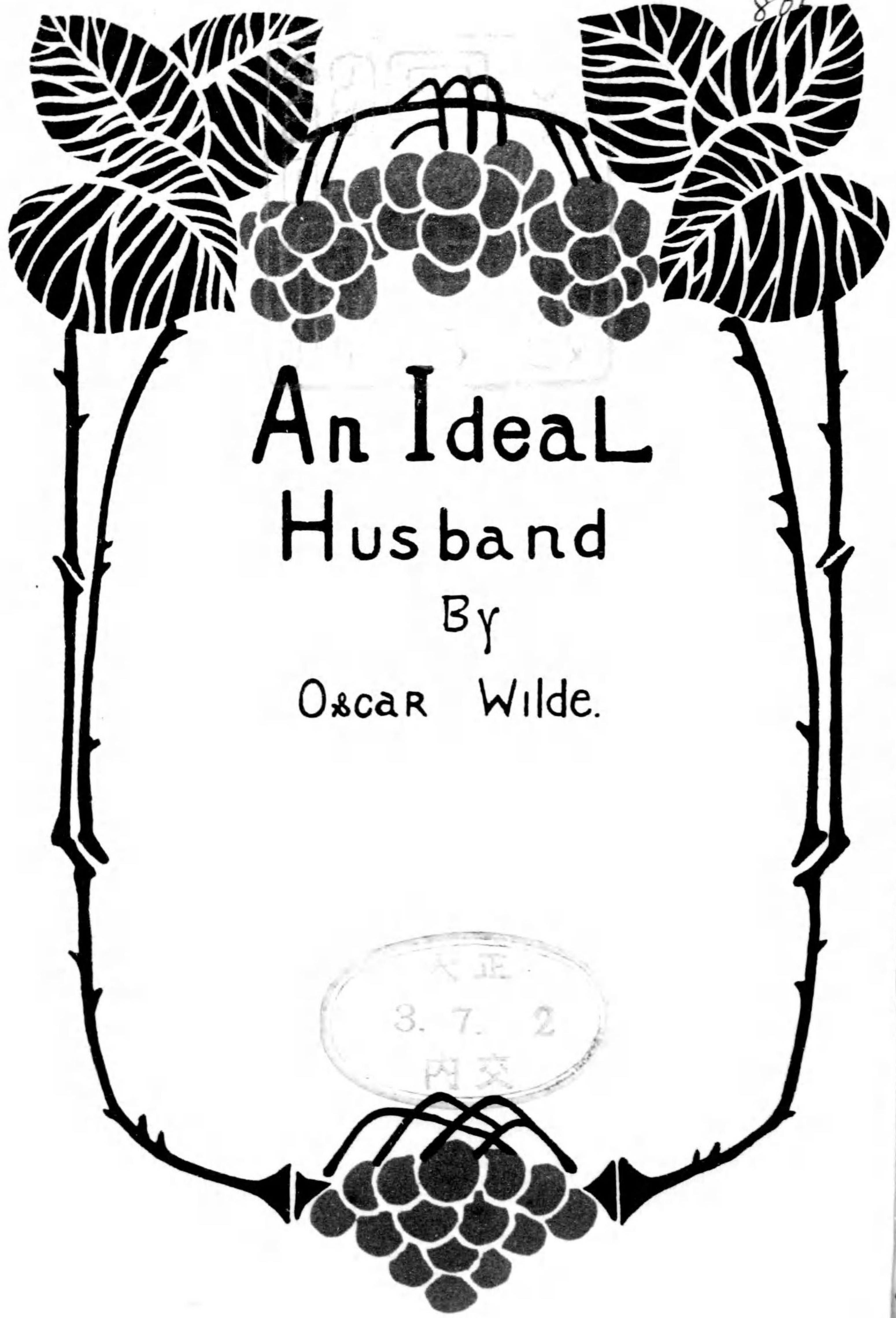
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始





特102
801



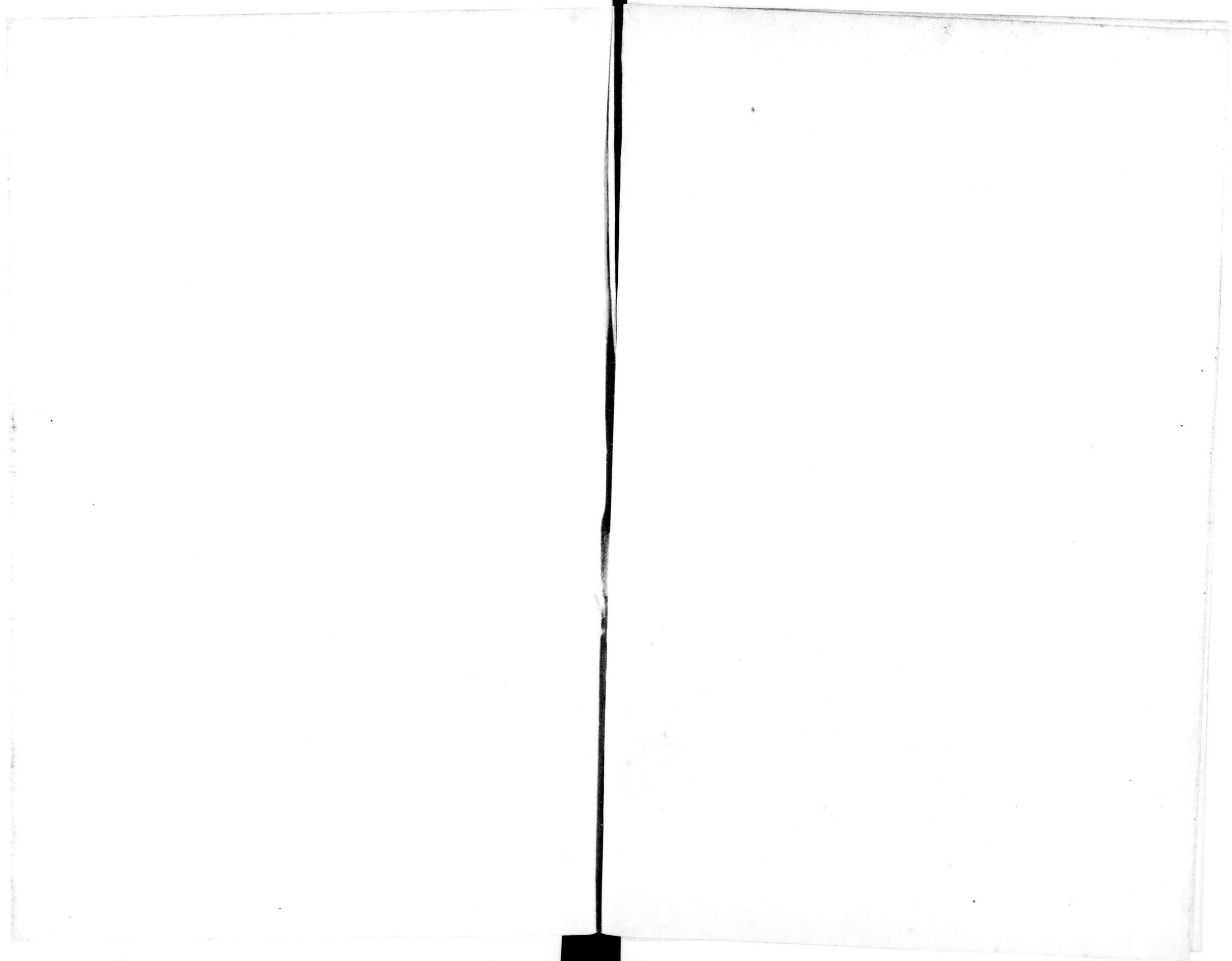
An Ideal

Husband

By

Oscar Wilde.

大正
3. 7. 2
内交





はしがき

オスカー、ワイルドの作アン、アイデイヤル、ハズバンドを譯出して「理想の良人」と致しましたが内容から見ると寧ろ理想の妻とすべきものだと思ひます、此作は彼の現實を離れた誇張的な唯美生活の上に現れたる英國貴族を中心として描いた暗示劇であります、又彼の皮肉な筆先で政界の一味の人々を諷刺した様な處も見受けられます、彼が虚偽と矛盾とで満ちあふれた此の乾ききつた現實から超越した——理想的官能的な而も本能的な唯美的のに憧憬して彼の生活の内に巧みに題材を發見し作中に自個の生活と運命を織込んで作者の態

度を明らかにして居る處などは好く窺ふ事が出来ず、此處等にも彼の作の外の夫とは變つた處があると思はれます、譯は出来る丈け自由に意譯した積りですが猶ほ逐字譯の處もありまじやう、是れがため澁晦に陥つた様な處は充分の御含みを持つてお讀みになつて下さい、若き藝術家矢部君が大變奇麗な裝飾をして下さつて貧弱な内容に美しき衣を與へて下さつた事を此處で深く感謝します。

築地にて

扇 三 識

千九百十四年六月十五日

目 次

第一幕	……………(一)……………(七三)
第二幕	……………(七三)……………(百三十六)
第三幕	……………(百三十七)……………(百十九)
第四幕	……………(百九十一)……………(二百三十九)

理想の良人

人

オズカー・ワイルド原著
磯田扇三 譯

カバリーシヤム伯爵はくしやく

ゴーリング子爵ししやく。カバリーシヤム伯息子

ロバート、チルタン卿きん。従男爵

外務次官ぐわいじやくわんナンジエなんしやく子爵ししやく。倫敦駐劄佛國大使館附武官

モントフォド。

メーソン。チルタン家執事、

フ非ツブス。ゴーリンググ子爵僕、

ゼエムス。

從僕

ハロルド。

チルタン令夫人。

マークビー令夫人。

バシルドン伯爵夫人。

マーチモント夫人。

マベル、チルタン嬢。ロバート。チルタン從男爵令妹、

ケベリー夫人。

時

現代。

所

倫敦。

序幕

場面

グロスベリア街ロバート、チルタン從男爵邸、八面室。室内は電光燦として目映ゆき計り。來客許多。階段の頂上にチルタン令夫人立つ。威嚴あるギリシヤ風美人年の頃二十六、七、來客の入來る毎に接待に急忙し。階段中頃少し廣まりたる處に白蠟に火照りたる吊燭燈夫に輝く一大十八世紀式佛蘭西綴張ホイヘル畫伯圖案の愛の勝利を現したるが側壁に擴がりたり。右に音樂室入口四部合唱の弦聲かすか。左入口は他の應接室に通ず。

マーチモンド夫人(マシロドン) 令夫人の兩美人共にルイ形長椅子に寄る。華奢にして繊弱な姿。立居振舞優に柔さしくワテユが好んで書きそうな態。

マーチモント夫人 マガレット様。今夜ハートロックに御出で遊しますの？

マシルドン令夫人 エ、行かうと思つて居ますの、して貴女は？

マーチモント夫人 私も行きたいと思つて居ますの、けれど無性に飽きくする會

ぢやありませんか

マシルドン令夫人 無性に飽きくする會！ まあ眞實にさう、私は何の爲めに行

くのやら自分で判らない位なんですの、何處へ行くにもひうで何故つて事は考へた事が御座いませんわ、

マーチモント夫人 私は此處へ勉強に來たんですの、

マシルトン令夫人 まあ嫌だ勉強にだなんて、

マーチモント夫人 私もそれは嫌なんですよ、商人魂生になりますものね、さうぢ

ありませんか、然しあのガートルードチルタン様がいつも斯う云ふんですよ、あの……人間はね生活上何か眞面目な話相手が無けりやいけませんで、ですから私も一つそれを探出して見やうと思ふんですの

マシルドン令夫人(眼鏡越に邊を見廻しながら) 今夜はあまり眞面目な話相手になるやうな人は一人も見えないやうですね、私を晚餐にお連れ下さつた方ね彼の方は始終奥様の御話計り

マーチモント夫人 まあ何んて俗な方なんでしょうやう

マシルドン令夫人 恐ろしく俗な方！、貴女の旦那様は何んな事を御話になります

？

マーチモント夫人 私のことですの

マシルドン令夫人(元氣なく) 面白う御座んすか

マーチモント夫人(首を振りながら) 否え、ちつとも面白かありませんの

パシルドン令夫人　　マーガレット様私達は何んて人が好いでしやう

マーチモント夫人(立上つて)　　オリピヤ様私共にはそれが結句適して居るのでしやうよ(兩人共立上り音楽室に歩をうつす。とナンジエ子爵襟飾と英國最員で有名な大使館付青年士官が腰低に會釋をしながら近づいて會話の仲間入をする)

メーソン(階段の頂天から來客の名を通ず)　　ジエーン、パフオード様御夫婦、カバールシヤム伯爵様、(伯爵登場、七十餘りの老紳士、ガーター勳章を佩し風彩陸離たるホイグ型、寧ろローレンスの肖像を見るがやうな)

カバールシヤム伯爵　　ヤ、チルタン令夫人、御機嬢様、俺ん所の吞食息子はもう來て居ますかいな?

チルタン令夫人(顔に微笑を浮べながら)　　否え、未だのやうで御座んすよ

マベル、チルタン嬢(カバールシヤム伯爵の側に寄り)　　吞食息子だなんて、まア何故そんな事をおつしやるんです

「カバールシヤム伯爵は英國生粹の美人、雨にしほれた海棠と云ふ嬌態。花の芳香とか自由とか云ふものに、何一つ缺はない。彼女の毛髪には日光が波打ち、唇のクツキリと別れた小さい口には小兒のやうな人懐さが宿つて處女の人を魅するやうな専横と無邪氣の恐ろしい生氣とがあふれてゐる。正氣な人にはさうでもないが全くの所タナグラの像のやう——然しさう云ふと彼女は氣を悪くするかも知れない」

カバールシヤム伯爵　　何故つて彼は吞食で困るんぢやて
カバールシヤム伯爵　　何うして? 彼の方は朝十時にはお馬でロイ公園へお出でになるし週に三度は必ずオペラへお出でになるし一日五度も着物をお着更へになるし又期節には毎晩他所で御夕食をお認めになるし、それなのに吞食だなんておひどいぢやありませんか、さうお思召さなくつて?

カバールシヤム伯爵(慈悲深い瞬をさせながら彼女を凝視して)　　貴女は眞實に美しい嬢さんぢやの

マーベル、チルタン嬢 何んて御粹な殿様でしやう、カパーシヤム伯爵様、モット度々いらしつて下さい、御承知の通り水曜日にはいつでも居りますから……それはさうと御勳章がまア立派に好く似合ひですこと

カパーシヤム伯爵 それぢや何處へもお出でちやいけんですぞ、倫敦俱樂部も胸を悪くする程嫌になるんぢや。衣裳でも俺ん所の裁縫師で我慢する……彼はいつでも正義黨へ投票するでな、然し俺の家内の帽子屋と食事を一所にするやうな蔑んだ事は有無を云はせず撥ねつけなくてはいかん。カパーシヤム令夫人の帽子には遣切れんて

マーベル、チルタン嬢 私倫敦俱樂部つて大好き、彼の俱樂部も餘程好くなつて来たと思ひますの、今ぢや全く美しい痴者と華かな風癪者の寄集り——恰度彼の俱樂部に應しいやうに

カパーシヤム伯爵 フム、ゴーリンは何ちらぢやの、美しい痴者ぢやうか華かな風

癪て云ふものかいな

マーベル、チルタン嬢(重々しく) ゴーリン子爵様が何れへおはいりになるかそれは子爵様御自身でお決めになるもんです今の處私にはそれつきりお答へ出来ませんわ、けれど何んて奇麗におなりでしやう!

カパーシヤム伯爵 何ちへ奇麗になつたと云ふんぢやの?

マーベル、チルタン嬢(少し慇懃になつて) 早速お知らせ申したいもんですわ伯爵様!

メーソン(來客を報して) マークビー令夫人ケベリー夫人

「マークビー令夫人及びケベリー夫人登場、マークビー令夫人はエ、ラ、マークイの白毛交りの毛髪と品の好いレースを飾つた快活で親切氣のある平民的な婦人、其れと連立つたケベリー夫人と云ふは背の高い寧ろ細々した形、唇は薄く嫌と云ふ程口紅が着いて青い面に緋筋が目立つ、マネチャ式赤髪、鷺の嘴のやうな鼻、長い襟首、

紅がらは顔色の青いのを彌が上青くす止度なく動いてる灰綠色の瞳、胸の邊には
ダイヤ入の回照器が輝き蘭のやうな面影は人の好奇心をそゝる、慎深い振舞、全體
に、色々な藝派の影響を受け過ぎたと云ふ嫌ひはあるが一の藝術品たる事を思はせ
る」

マークビー令夫人　ガートルード様、御機嫌好う、私のお友達ケベリー夫人をお連
れさせ下すつて恐れ入ります、御兩人のやうなお美しい方々はお互にお見知り置く
のが大切だと斯う思ひましたの

チルタン令夫人（ケベリー夫人の方へ溢るゝ計りの愛嬌を以て進み寄る……かと思れ
ば急に立止つて寧ろ遠方より會釋する）　ケベリー御夫人とやら好うこそ……貴
女にいつかお目に掛つた事があるやうに思ひますが……御再婚なすつたとは少しも
存じませんでした

マークビー令夫人（快活に）　エ、エ、當節では何度でも出来るだけ多く結婚するの

が好いんださうでそれが當世流と云ふんださうですよ（メリポロ公爵夫人に向つ
て）公爵夫人様公爵は如何でいらつしやいます、矢張り腦の方がお悪くつて!? さう
でしやうとも、あの方の大殿様もお悪かつたんださうですから……仕方がないもの
ですわね、血統程恐しいものはありませんね、
ケベリー夫人（扇をいぢりながら）　チルタン令夫人様、私共は眞實に何時か前にお
會した事があつたんでしたかね、何處だつたか覚えませんが……あの私は永く英國
に居ませんでしたよ

チルタン令夫人　ケベリー夫人、學校で一所だつたぢやありませんか
ケベリー夫人（鷹揚に）　眞實ですか、私は學校に居た時分の事などすつかり忘れて
終ひましたわ　唯氣に觸つてくゝならなかつた事だけ茫然と覚えて居ますの

チルタン令夫人（冷かに）　さうでしやうとも
ケベリー夫人（出来る限り嬌を作つて）　チルタン令夫人様、私は旦那様にお會し度

いと思つて楽しみに待倦んで居るんですよ、旦那様が外務省にお出になるやうになつてからヴェナの市では大評判、それは、大したもの、新聞でも旦那様の御名を綴落すやうな事はない位い……其事丈でも大陸では名譽なんでございます

チルタン令夫人

貴女と私の夫と一所にされては迷惑ですわね(斯う云ひ棄て、去る)

ナンヂエク子爵

オ、御令夫人でしたか暫くでしたな……ベルリンで御會した切

りでしたわね

ケペリー夫人

ベルリン處ですか、子爵様五年も前ですよ!

ナンヂエク子爵

何時になくお奇麗ですな、何うしてさう美しくなるんだらう

ケペリー夫人

つまり斯うなんですワあの……子爵様のやうなお奇麗な方と定つて

お話しするんです、さうしたら美しくなる事疑なしですわ

ナンヂエク子爵

御世事を仰しやい、當地では矢鱈に持上げられるんで困つちまい

ますよ

ケペリー夫人

當地では矢鱈に持上げるんですつて? まあ嫌だ

ナンヂエク子爵

遣りますとも、當地の人々は不思議な舌を持つて居ますよ、此事

は廣く世間に報告して置かないといけない

「ロバート、チルタン卿登場、四十にしては幾分若く見える、髯を薩張り剃込んだ

髪の毛の半白な、瞳の暗く濃んだ、纖巧な容貌、一見知名な人物と窺はれる、餘り類

のないやうな氣高さは賞讃の的となるよりも人々崇拜の對象となる、其舉動はと

云へば多少自尊心の加はつた傾はあれどハキ／＼と竹を割つたやうに截然として彼

が生涯の成功を意識して居るやうに感じられる、然し神経質な氣性は何處か倦怠の

色を表はしキリツと結んだ口と頗は情緒的な奥まつた眼と面白い對象をして居る

而してそれは、思想と感情とが意志力の横暴から各其範疇に立籠つて居るやうに慾

情と理智との截然たる分離を暗示して居る、鼻空と蒼白な纖い骨張つた双手に神経

質な所が仄見える、彼を繪畫的と云ふは必ずしも當つて居ない、繪畫的な靜謐は議

會に風雲を捲起すやうな事はない、然しバンダイクなどは好んで彼の頭を繪に書いたかも知れない」

ロバート、チルタン卿　マークビー御夫人、御機嫌様　ジャン卿をお連れ下されば好かつた、

マークビー令夫人、否えジョン卿よりそれはくズット好い方をお連れしたんですよ　ジョン様と云へば彼の方も政治に夢中になられてから氣性が餘程變つて來られたやうですそれはく堪らない位ですよ、議會がこれから漸次大切な時節になつて來ると云ふのにあんなでは返つて困りもんですわね

ロバート、チルタン卿　議會も無事に濟んで呉れりや好いが……マークビー夫人兎に角我々は國家の爲にはベストを盡してやるつもりですよ　然しお連れ下すつたと云ふお方は？！何人です？

マークビー令夫人　ケベリー夫人と仰る方です！ドーセットシヤヤケベリー家の

方……と思ふんですが實の處は私もよく存じませんの當節では家庭と云ふものも餘程混亂して居ますものね眞實に誰人でも何時の間にか他のお方と變つてお終ひになるんですもの、

ロバート、チルタン卿　ケベリー夫人？　さう云へば聞いたやうなお名前だがな……

マークビー令夫人　つい近頃ヴェナからお歸りになつた方ですの

ロバート、チルタン卿　ア！さう／＼多分彼の方の事だらう

マークビー令夫人　さうです／＼彼の方は何處へでも出掛けてお出でになりませ、而してお友達には始終迷惑ばかりかけて居るんですよ私は事實明年の冬にはヴェナニ行かなかりやならないんですが……大使館に好い料理人があつて呉れ、ば好いロバート、チルタン卿　若し不都合な事があつたら貴女の事だから大使を召喚してやりませう、それはそらとしてケベリー夫人は何處にお出でですか、會つて來ませう、

マクビー令夫人　では御紹介しませう、(ケベリー夫人に向ひ)ケベリー様ロバート、チルタン様がお待ち兼ねで居らつしやるんですよ！

ロバート、チルタン卿(會釋をしながら)　私計りぢやない皆がさうなんですぞヴェナの大使館附武官などは貴女の消息の外は何も書いて寄さない位なんです

ケベリー夫人　おほきに有り難う御座いますロバート様御讚めに預つて始つたお近附は必然末々迄市が榮えるさうですわ、始めが好いんですから終りも好いに違ひありません、其上御令夫人とは前に御近附だつたんですよ

ロバートチルタン卿　眞實ですか

ケベリー夫人　眞實ですとも　今迄忘れて居ましたが考へて見れば學校で御一所でしたんでよく憶えて居ます、御令夫人はいつも善行賞を戴いてお居でしたつけが其事は今でも明瞭と頭に残つて居ます

ロバートチルタン卿(微笑しながら)　ケベリー夫人、それぢや貴女は何賞でした？

ケベリー夫人　私の御褒美は餘程後の事でした、何でも善行賞ぢやなかつたんですか……何でしたか忘れましたわ

ロバート、チルタン卿　何でもお容貌が好いと云ふ御褒美に違ひないでしやう

ケベリー夫人　まさかさうでも御座いますまい容貌が好いと云ふ御褒美より容貌が好いと云ふ刑罰の方が多いかも知れませんが、眞實にさうですよ、當節では多くの御婦人方が端の方からヤンヤと云はれる計りに老衰れて終ふんですから！少くも倫敦で御奇麗な方々の多くが恐ろしく瘠せかけた御姿におなりなのもこれが爲めとしか私には考へられませんか

ロバートチルタン卿　凄じい御見識ですな、貴女を色分けにすると云ふ事は、御夫人失禮かも知れませんが、何うでしやう貴女は一體樂天家なんですか厭世家なんですか　此がたつた二つの當世流な宗教らしいんです

ケベリー夫人　樂天家でも厭世家でもないんですの、樂天論は上調子な嘲笑に始り

悲觀主義は陰鬱な光景に終るんですのみならず、兩方とも唯さう云ふ風に観ると云ふに過ぎないので

ロバートチルタン卿　つまり自然が好いと云ふんですね

ケベリー夫人　或る場合にはそれも好いでしやう、然しさうした態度を持耐へると云ふ事は仲々難しい事なんです

ロバートチルタン卿　近頃噂の心理小説家と云ふやうな人々はそれを何ういふ風に云ふんですかな

ケベリー夫人　オ、女の強い所は其心理學でも説明が出来ない所にあるんですよ殿方の御心持は分解が出来ませう然し婦人の心と云ふものは唯崇拜すべきものなんです

ロバートチルタン卿　婦人の問題はつまり科學でも掴む事が出来ないかと仰るんですね

ケベリー夫人　然うですともいくら科學でも不合理を掴む事は出来ませう、それが科學と云ふものには未來がないと云ふ譯なんですよ

ロバート、チルタン卿　それで御婦人が不合理の代表だと云ふんですねケベリー夫人　御奇麗に着飾つた御婦人達が其代表者だと云ふんです

ロバート、チルタン卿(叮嚀に會釋して)　其處迄は何うも御賛成が出来兼ねますが……まアお掛け下さい、併し何うしてあの華かなヴェナからこんな陰氣な倫敦へ?——愚な事を聞くと仰るか知らんが、何うした故からなんです

ケベリー夫人　愚な事だなんてそんな事は思ひませぬわ……愚な答で云ふのはあるかも知れませんが……

ロバート、チルタン卿　然うですか　兎に角倫敦へお出でになつたのは政用の爲めですかそれともお遊山の爲めですか

ケベリー夫人　政治これが私に唯一の楽しみなんです、さうぢやありませんか當節

では四十前に浮いた事をしたり四十五にもならない中粹をしたりするのは流行らないんです、ですから三十にもならない私共……さう云つて置ませう……には政治とか慈善とか云ふもの、外には仕事がないぢやありませんか、で慈善なんてものは私が思ふに仲間の人間に世話をやかして平氣で居やうと云ふ人々の僻場に過ぎないんでしやう、ですから政治の方が好いと思つたんですよ、私にはそれが思ふよりも以上に適してると思ふんですの

ロバート、チルタン卿 政治的生活は高尚なもんです！

ケベリー夫人 時には然うです、或る時には好い遊戯です、ロバート様 而し又時には大變な行儀です

ロバート、チルタン卿 其中何れを御経験になりましたか、

ケベリー夫人 私ですか？ 何れを経験したとも云へませんね云はゞ三つのもの、一所になつたものでしやう（扇を落す）

ロバート、チルタン卿（扇を拾ひ上げて） 御免なさいよ、

ケベリー夫人 マア夫は恐れ入ります、

ロバート、チルタン卿 併し急に倫敦がお氣に入りになつた譯を未だお話し下さらんが何うなんです、社交期もモウ殆んど過ぎましたよ

ケベリー夫人 倫敦の社交期などは心にありませんわ、徐り粹ですものね、御婦人達は夫定めかさもなくば他の男と驅落ちかそんな屈托計り 私はその事よりも貴下にお會したい計りに參つたんですの、眞實ですわ、女の好奇心は何んか御存じでしやう殿方に劣らず強いもんですよ、私は貴下にキツト會ふ決心で來たんです、貴下に一つお頼みしたい事があつて……

ロバート、チルタン卿 一寸した事でない方が好いですね、ケベリー夫人、小さい事と云ふものは兎角難しいもんです

ケベリー夫人（一寸考へて） 否えそんなに小さい事でもないんですの

ロバート、チルタン卿　あ然うですかそれで安心しました、では何んな事です
ケベリー夫人　何れ後程……(立ち上つて)それはさうとお屋敷の中を拜見さして戴
けませうか、お宅の繪畫は大層結構なものださうで御座いますね　彼のアーンハイ
ム男爵様子、御存知でしやう？あの方はいつでもお宅にコロの繪があるツて非常
な御評判なさいますよ

ロバート、チルタン卿(かすか驚いた風で)　エ、貴女、アーンハイム男爵を好く御
存じですか!?

ケベリー夫人(微笑しながら)　エーエ極くお心安にして居ります、貴下も御存じで
したか?

ロバート、チルタン卿　エ、前に一寸……

ケベリー夫人　面白い方でしやう?

ロバート、チルタン卿(間を置いて)　珍しい人ですよ……色々な方面から

ケベリー夫人　私はよくさう思ふんですが彼の方が御自傳をお書きにならないのが

残念でなりません、お書きになつたら嗚々面白いものが出来るでしやう

ロバート、チルタン卿　然うですな彼の人は仲々物知りだから……恰度古の希臘人

見たいだ

ケベリー夫人　ペテロロプのやうな御夫人が御内に居らつしやる御心配はなし至極

結構でございませしやう

メロソン　ゴロリン子爵のお出で!

(ゴロリン子爵登場、歳三十四、されど常にそれより若く歳を云ふ、育ちの好い表
情のない顔、伶俐なれどさう云はれるのが嫌な性、全くの洒落者なれど他から粹だ
と云はれるのがつらいと云ふ變者、此世を茶にして暮さうと云ふからに氣さくな、
人交ひは至つてい、他に誤解されるのが好きでそれ故彼にとつては無性に都合が
好い)

ロバート、チルタン卿 ヤ、アイサー君、御機嫌様、アノ、ケベリー夫人、ゴリー
ン子爵を御紹介します 倫敦で評判の通人ですよ

ケベリー夫人 ゴーリン子爵様には前にお目に掛りましたから存じて居ります
ゴーリン子爵(會釋をして) ケベリー御夫人お忘れになつたぐらうと思つて居まし
たよ

ケベリー夫人 何う致しまして仲々お忘れする所ぢやありませんわ、して貴下は未
だ御獨身で?

ゴーリン子爵 エ、まアさうです!

ケベリー夫人 それは結構ですわね

ゴーリン子爵 結構でもありませんよ、未だそこ迄にならないんです、結構な事は
目上の人達にお任せしてあるんです

ロバート、チルタン卿 ケベリー夫人 ゴーリン君はブドル俱樂部の會員ですから

ね、

ケベリー夫人 ブドル俱樂部の御方じや御信用がなりませんね、

ゴーリン子爵 倫敦には永らく御滞在ですか

ケベリー夫人 それは天氣都合や料理の加減や又一つにはロバート様の御挨拶に依
つて何とも申し兼ねます

ロバート、チルタン卿 まさか例の難問題に我々迄巻き入れやうと云ふんぢやない
でしやうね?

ケベリー夫人 只今の所御心配には及びませんわ

(彼女は心地好げな眼付でゴーリン子爵に會釋をする而してロバート、チルタン卿と
連立て其處を去る、ゴーリン子爵はブラ〜歩きながらマベル、チルタン嬢と出會ふ)

マベルチルタン嬢 大層晩う御座いましたのね!

ゴーリン子爵 私を見失つたと云ふんですか?

マベル、チルタン嬢　エ、大きに然う

ゴーリン子爵　それぢやもつと外で遊んで呉りや好かつた、私は迷兒になるのが大好きなんです

マベル、チルタン嬢　何んて自分勝手なんでしやう

ゴーリン子爵　自分勝手ですとも

マベル、チルタン嬢　貴郎はいつでも御自分の悪い事計り仰る

ゴーリン子爵　併し未だ常のたつた半分位しか云ひませんよ、マベル嬢様

マベル、チルタン嬢　後の半分もひどく悪いんですか

ゴーリン子爵　さうですとも怖しい程悪い奴なんです！　それで夜その事を考へると直ぐ寝込んでしまふのです

マベル、チルタン嬢　何でも好ござんすね、悪い御氣性なら御氣性でそれが大好き、決して其一つにさへ干渉がましい事は云ひませんわ

ゴーリン子爵　それは有り難い、さう云ふ氣で居て下さるならいつでもマベル嬢様

だが……それはさうと——一つお尋ねしたい事があるんですがあの……ケベリー夫人ね彼の人を誰が此處へ連れて來たんです、あの日照器の首飾を着けた婦人ですよ今お兄様と室から出て行した

マベル、チルタン嬢　ア、あの方ですか、多分マークビー令夫人が御連れ申したでしやう　何故なんです？

ゴーリン子爵　別に何んでもないんです、たゞ暫く會はなかつたから……それ丈の事なんです

マベル、チルタン嬢　何んて下らない理由なんでしやう、

ゴーリン子爵　理由なんて云ふものは皆下らないものです

マベル、チルタン嬢　ケベリー夫人つて何んな人なんでしやうね、

ゴーリン子爵　晝間の中は才媛で夜になると窈窕たる美人！

マベル、チルタン嬢 何んだか嫌な方ね

ゴーリン子爵 それはつまり貴嬢が趣味高尚だから……

ナンヂエク子爵(進み寄つて) 英國婦人は眞實龍のやうに趣味高尚ですね、さうぢ

やないですか、全く龍宮の乙姫のやうだ

ゴーリン子爵 新聞にもよくそんな事が云つてありますね

ナンヂエク子爵 私は大抵な英字新聞は読んで居ますが仲々面白いですね

ゴーリン子爵 ナンヂエク君、それならそれで裏の裏まで読み徹して下さらんと困

りますぞ

ナンヂエク子爵 さうしたいと思つて居ます然し先生が反對するんでね(マベルチ

ルタン嬢に向つて) 音楽堂へお伴しませうか、お嬢様

マベル、チルタン嬢(失望した様子) 何卒、喜んでお伴しますわ子爵様、(ゴーリン

子爵を省みて) 貴郎もお出でになりませんか

ゴーリン子爵 マベル嬢様、奏樂中なら廢しませう

マベル、チルタン嬢(語強め) 獨逸語の音樂ですわお解りにならないかも知れません

(ナンヂエク子爵と共に去る、とカパーシヤム伯爵ゴーリン子爵の側に來る)

カパーシヤム伯爵 オ、お前か、何をして居るんぢや 相變らず呑食か、モウ寝た

が好い晩く迄起きると毒ぢや、此間の晩ラアフォルド令夫人の舞踊會で朝の四時

迄騒ぎ通したと云ふぢやないか!

ゴーリン子爵 父上、四時に十五分前でした、

カパーシヤム伯爵 何うしてお前が倫敦社交會を立つて行くか俺にや一向解せんよ

あんな物は犬も食はない物んぢや無爲者の空虚話をする寄集りぢや、

ゴーリン子爵 父上、私は空話が好きななんですこれが私の知識の全體なんですか

ら……

カパーシヤム伯爵 道樂の爲めに生きてると見えるわい

ゴーリン子爵 然し外に活きる方法はないでしやう 幸福を求めて日を暮らすに

カパーシヤム伯爵 全く無茶ぢや 無鐵砲ぢや

ゴーリン子爵 無茶ぢやありません、バシルドン御夫人、御機嫌やう、

バシルドン令夫人(三日月のやうな美しい眉をして) アラ貴郎もお出で? まあ政治

治的な會合にお越しとはチットモ氣が注ぎませんでしたね

ゴーリン子爵 政治的な處至極結構、斯云う會合が一番政治の話が出なくつて好い

バシルドン令夫人 まあ私は政談が大好きなんですの、政治の談だと一日でも話して

居ますわ、けれどかしくまつて聞いて居るのは憂らうござんすは 議員の方なんぞ

よく長たらしい討論をヂット耐へて居られますわね

ゴーリン子爵 上の空で聞いて居るんですもの

バシルドン令夫人 然うでしやうか?

ゴーリン子爵(至極、眞面目な風で) 然うですとも、さうぢやないですか一體耳を

傾けるつて事は危い事ですからね、傾聴するから遂成程となつて終ふ、で人の口車に乗つて意見を變へるなんて骨無し骨頂ですよ

バシルドン令夫人 ア、それで解りました、私が何うも解し難い人だと思つて居た

方々だの旦那様に誤解されて居る御婦人方だの矢張りそんな事から間違が起るんで

すわね、

マーチモンド夫人(嘆聲を漏して) 夫などは私を誤解計りして居て眞實に困つて終

らんですが他様の處へでも行つてお話して戴かなけりや婿が開きませぬ、

バシルドン令夫人(語勢を強めて) 然うですともいつも他の厄介に計りなるんです

の……ね

ゴーリン子爵(微笑しながら) 三國一の婚殿を持つて御座るお兩方の御意見とも覺

えませぬね

マーチモンド夫人 三國一だから困ると云ふんですよ宅のレギナルドなどは玉に瑕

瑾もないと云ふ完璧なんですからなれつたくつて堪らないんですの、だから少とも面白味がないです

ゴリン子爵　これは烈い奥様方ですね、他の人にお知らせしなくつちや
パシルドン令夫人　夫なども然うなんですよ、それはくゝ氣が注くつたら獨身者か
何かのやうですね、

マーチモンド夫人(パシルドン令夫人の手を握り締めて)　オリビヤ様お互に完璧な
夫を持つたのが悪かつたんですわね、完璧な夫にはもう懲りくゝ
ゴリン子爵　旦那様方こそ好い御迷惑だ

マーチモンド夫人(身を退いて)　何うして仲々其んな所ぢやありませんよ、彼の人
達は御道樂のしたい放態、それで居て私達に對する信用と云つたら泣き度くなる位
なんですのよ、

パシルドン令夫人　眞實に泣き度い位

ゴリン子爵　夫は或は寧ろ喜劇の方かも知らん、

パシルドン令夫人　まア喜劇だなんておひどい方、それ處ぢやないんですよ

マーチモンド夫人　ゴリン様は相變らず此方の味方ぢやないんですよ、玄關へお
這入りになるや否やケペリー夫人とお話になつて居ましたわ

ゴリン子爵　美人でしやう

パシルドン令夫人(ツンとして)　私達の居る前で……お控へ遊せ、此方から云ふ迄
何とも云はないで待つてお居で遊ばすものですよ

ゴリン子爵　待つて居たんぢやありませんか

マーチモンド夫人　まア何でも私達は別にお讚めする氣はありません、私が聞いた
事には何でも月曜の晩オペラへお出でになつてトミー、ラアフォルド様に夕食の節
倫敦社交會は見たところ洒落者の寄集りだとか御仰つたさうですよ

ゴリン子爵　それが眞實の所かも知れない、男がおひさずりで女がだて者、さう

でしやう？

マーチモント夫人(間を置いて) ア、ケベリー夫人がさう云ふ意味で云はれたと仰るんですか

ゴリン子爵 さうですとも ケベリー夫人にしては仲々の卓見ですよ

(マーベルチルタン嬢登場 會話の群に入る)

マーベル、チルタン嬢 何うしてさうケベリー夫人の事計り出るんでしやう……何處へ行つてもケベリー夫人の御評判ばかり、ゴリン様は……何とかお仰いましたね？ア、さうく彼の方は晝間の才媛夜の花形つて

パシルドン令夫人 何と云ふ奇妙な取合せなんでしやう、従つて不自然な事なんでしやう

マーチモント夫人(いたく幻想的の仕様で) 私才媛を見たり美人の仰る事を聴くのが好き

ゴリン子爵 併しそれは少し病的ですわ

マーチモント夫人(眞の愉快さに輝きつゝ) さうお仰つて下さると眞實に嬉しいんですマーチモントと私は七年も同棲に居ますがさう云はれたのは今日始めて、殿方は御氣の毒な程大ざつばなもんですわね

パシルドン令夫人(マーチモント夫人の方へ向いて) 私はいつでも貴女が倫敦一の病的な方だつて云つてゐるぢやありませんか

マーチモンド夫人 さうで御座いましたかね然しオリビヤ様、貴女はいつも私に同情して下さい

マーベルチルタン 嬢ですがお腹が空いて仕方がないのも病的なんでしやうか 私は何か食べたくつて仕方がありませんわ、ゴリン様、御食事に行きませうよ

ゴリン子爵 好うござんすとも、では行きませう(彼女と共に歩み出す)

マーベル、チルタン嬢 貴郎は随分お酷ひ事些も私にお口をお聞にならないんですもの

ゴーリン子爵 何うして、お話し度くとも貴女が彼のやうに政治家と行つて終つては出来ないじやありませんか

マベル、チルタン嬢 それでも私と一所に随つておいでになりや好かつたでしやう、それが御親切氣と云ふもの、今夜は貴郎嫌ひですわ

ゴーリン子爵 貴女はお嫌ひでも私は大好き

マベル、チルタン嬢 そんならそのやうにモット判るやうに御親切氣を出してお見せ遊せな(兩人階下へ退く)

マーチモンド夫人 オリビヤ様私何んだか疲勞して終ひました、何か食べたいやうな氣がします、貴女も御一所にお食事に致しませんか

パシルドン令夫人 マーガレット様 私も全くの所お腹が空いて仕方ないので、マーチモンド夫人 殿方なんて恐しい自分勝手なもので斯云ふ事なんかお氣にも掛

ないんですわね

パシルドン令夫人 エ、エ、男子方などそれはく俗なもんですわ

(ナンヂヤク子爵他の來賓と共に音楽室より出で来る、邊を見廻しながらパシルドン令夫人の側へ寄る)

ナンヂヤク子爵 御令夫人、如何ですか食堂へお伴致しませう?

パシルドン令夫人(冷やかに) 子爵様誠に恐れ入りますがお食事は戴きませんから

……(子爵は退かうとする)と見たパシルドン令夫人直に立ち上り其腕をとり)けれど階下迄お伴致しませう

ナンヂヤク子爵 私は食道樂でね、嗜好も全く英國風なんです

パシルドン令夫人 子爵様、全く英國氣質に見えますわ

(兩人舞臺を遠退く、モントフォールド——何から何迄手入の届いた若き伊達紳士、マーチモンド夫人に近寄つて)

モントフォールド マーチモンド夫人お食事は如何です

マーチモント夫人(物憂さうに) 恐れ入ります、別に戴き度くもありませんわ(と云ひ様急ぎ立ち上り其手をとり)ですけれど貴郎と一所に座つてお食事なされるのを見張りして居ませうね

モントフォールド 見張られて喰べるのも好い氣なものでありませんよ

マーチモンド夫人 それでは他を見て居ませう

モントフォールド 何ちも嫌です

マーチモント夫人(鋭く) まあ、モントフォールド様、他人様の前でそんなに酷く世

話を焼かせるものではありませんよ(兩人他の客等と共に階下に退く、と入り違ひ

にサ、ロバート、チルタン及びケベリー夫人登場)

ロバート、チルタン卿 それではケベリー夫人貴女が英國をお立ちになる前私共の

別荘へお出で下さりませうね

ケベリー夫人 否え何う致しまして、そんな事もして居られませんわ、此方では朝

食を華麗になさるがやくざな人ならいざ知らずそれは滅法な事ですよそして寢棺に半分這入つてるやうな人に祈禱書を読ましたり何かして居る ロバート様、私が倫敦へ参つたのも眞實は貴下に用があつてなんです(長椅子に腰掛ける)

ロバート、チルタン卿 (其側に腰を下して) 眞實に然うなんですか

ケベリー夫人 全く然うなんです、私は事實政治的又經濟的の一大計畫を御相談に

來ましたの、それはあの亞然丁開整會社の事に就いてなんです、

ロバートチルタン卿 ケベリー夫人、よくそんな面倒な、商賣氣な御相談が出来ますね

ケベリー夫人 イーエ、私は斯んな事が好きで仕方がないんですのだけど面倒臭い商賣氣の人なんか大嫌ひ其れは夫をする事と夫をする人には大變な違ひがありますのみならず貴下が萬國開整計畫には尠からず興味をお持ちになつて居ると云ふ事もよく存じて居ます、貴下は確かラドレイ卿の秘書官で居らしやつた事がありません

たね、さうでしたらうあの……政府でスエズ運河の株を買入れた時……

ロバート、チルタン卿 それはさうに違ひありません、然しスエズ運河は仲々の大
事業で英國にとつては一大重寶と云ふもんです、印度へ行くに彼航路を行けば直ぐ
ですからね、だからあれを手中に置く事は大切な事で亞然丁計畫の野師的なのと
は全く別物です

ケベリー夫人 それは御見識ですわね、大した御見識ですわ

ロバート、チルタン卿 まあ黙つて聞いてお居でなさい 全く野師の仕事に違ひあ
りませんよ、何でも短刀直入に云ひます、簡單で解易くて好い、外務省ではスツカ
リ調査が出来て居るんで實は私に特別調査委員もものを派遣して調べさした所其事
業は仲々手がつきさうもない拂込みの金など何處へ何うなつたんだか判らないと云
ふ報告でしたよ、まあパナマの二の舞と云ふ所です、萬が一にも成功覺つかなしで
す、だからそんな所へ投資などなさらんが好い——貴女などはお賢しいからそんな愚

な事はなさらんだらうが……

ケベリー夫人 私は大額な金を繰込んで終つたんです

ロバート、チルタン卿 誰がそんな愚な事を勧めるもんですか

ケベリー夫人 貴下の古いお友達の方——私もお友達なんですが……

ロバート、チルタン卿 誰なんです

ケベリー夫人 アイーンハイム男爵なんですの

ロバート、チルタン卿(眉を顰めて) ア、然うく男爵が死なれた時そんな事に嵌
り込んで終つたと聞いた事があつたけ。

ケベリー夫人 それは男爵最後のロマンスでした、終りから二番目の御自分に正
しき事を行つたんです、

ロバート、チルタン卿(立ち上り) それはさうと未だコロの繪を御覽にならない
でしやう？ 音楽室にあるんですが皆音楽につれて踊り出しさうに見えますよ、御案

内致しませうお覽になりませんか

ケベリー夫人(頭を振つて) 私今夜は銀色の薄暮だの蔷薇色の黎明だの見る氣分

なれないんですの、今の用事に就いてお話ししたいと思つて(と云ひながら扇で再び座に復すやうチルタンを招く)

ロバート、チルタン卿 唯もつと危険の少い事業に投じなさいと云ふ外もう別にお

話のしやうもありませんよ、開鑿の成否如何は英國政府の態度に依つて決るんです
が然し私が特派委員の報告を明日の晩議會でしますから

ケベリー夫人 それをして下さると困ります、ロバート様、私の利害はさて措き貴

下の爲め屹度そんな事はなりません、

ロバート、チルタン卿(怪訝な顔に彼女を視入りながら) 私の爲め? ケベリー夫

人それは又何うした譯です(彼女の側に座る)

ケベリー夫人 ロバート様、腹を割つたお話ですが特派委員の報告は何かの間違と

思はれる節も御座いますからいづれ御決心の上の事なんで御座いませうがそれを

議會で御報告なさるのは御見合せ下さいませ、それから政府も其問題に就いて再考

するさうだと云ふ事と若し彼の運河が出来上つたら大した國際的價値のあるものだ

と云ふ事を一寸御参考迄に云ひ足して置きます貴下は斯云う場合大臣方の言か何ん

な効果を持つて居るかよく御存じでしやう、少し計り道理が判つて居れば平凡なも

のでも何んでもそれで宜しいんです、けれど當節では其道理つて云ふものか仲々出

て來ないんでしてね、それが出来たらそれこそ世界中一纏めにも出来すわ、何う

ぞお頼みですからさうなすつて下さいませ、ね、お頼みですから

ロバート、チルタン卿 ケベリー御夫人、眞面目でそんな事をお云ひになるんです

か!

ケベリー夫人 眞面目ですとも

ロバート、チルタン卿(冷かに) 眞面目とも思へませぬね

ケベリー夫人(至極念入りに力強く)　　まア、然し決して氣など違つて居りは致しませんが若し貴下がお願を適へて下さるなら悪いやうには致しませんそれだけの事は屹度、致します

ロバート、チルタン卿　それだけの事は屹度しますつて?

ケベリー夫人　然うです

ロバート、チルタン卿　何う云ふ意味なんだか薩張り判らない、

ケベリー夫人(長椅子に寄掛つて彼の顔を視入りながら)　　まア落膽して終ひますがネ、ヴェナ下だりから遙々とやつて來たのも充分行違のないやうにと思つたからなんですのに

ロバート、チルタン卿　お氣の毒だが一向譯が分らない

ケベリー夫人(至極冷淡な調子で)　　ロバート様貴下は世界的な御人物でしやう又それに対応な名譽もお持ちだらうと存じます　　今では誰でも多少の世間體と云ふもの

があります、然し多くの人は其名譽を買ふに些と金が掛ると云ふのが難點です私もさうです、私は貴下がもう少し譯か解つて下さればいゝと思ふんですの

ロバート、チルタン卿(不機嫌さうに立ち上つて)　　ケベリー夫人、失禮ですが貴女の馬車をお喚びしませうお歸り下さい、貴女は外國へ永く行つてお居でになつて英國紳士に對する禮儀をお忘れになつたと見えますね

ケベリー夫人(扇を彼の腕につけ自分の物言ふ間去らないやうに抑へながら)　　然うですとも私は株屋に大切な内閣の秘密を賣つて金を造へたやうなる伶俐な人とお話しをして居るんですからね、ですからそのつもりでお話して居るんですわ

ロバート、チルタン卿(唇を噛みながら)　　何ですつて?

ケベリー夫人(立ち上り面と向つて)　　私は貴下の御身代の出所や貴下の舊惡をよく存じて居ると云ふんです、貴下の秘密書類も持つて參つて居ます

ロバート、チルタン卿　何んな手紙です?

ケベリー夫人(輕蔑的に)　ラドレー卿の秘書官でお出で遊ばした時アーンハイム男爵にお送りになつたお手紙——政府で買ふと決つた三日前スエス運河の株を男爵に買つて置けとお勧めになつたあのお手紙ですよ、

ロバート、チルタン卿(嘆聲になつて)　其んな事はありません、

ケベリー夫人　貴下は其手紙がもう疾くに消滅して終つたとお思ひでしたらう、何とお目出度い人でしやう、それは私の手にちやんとあるんですよ

ロバート、チルタン卿　貴女が仰る事柄と云ふのは捏造に過ぎません、下院では其時未だ議案を通過しなかつた、それは多分否決されたに相違ありません、

ケベリー夫人　それは野師ですよ、ロバート様短刀直入に云ひませう、その方が簡單で解好いから、さて私は其お手紙をお賣して上るつもりなんです其お値段と云ふのが亞然丁計畫の例のお願なんです、貴下は其御身代を一運河からお造りになつた、其貴下が私や二三人のものが、尙一つの運河から身代を作らうと云ふのに御助

位して下さらないと云ふ事はないでしやう

ロバート、チルタン卿　それは出来ません　私の名譽に關します、私の不名譽になりません

ケベリー夫人　そんな事があるもんですか、ロバート様これは晩かれ早かれ誰でも皆やらなくてはならない人生の藝當なんです

ロバート、チルタン卿　私にはそんな事は出来ません

ケベリー夫人　貴下はそれをしすには居られないんです貴下は今絶壁の上に立つてお居でになる、嫌だとお仰るとお爲めになりません　御承諾して下されば貴下のお徳と云ふもの若しお拒みになると……

ロバート、チルタン卿　何うだと云ふんです、

ケベリー夫人　何うだと仰るんですか、ロバート様　云はずと知れたる身の破滅と申すんですよ、内地での貴下の清教主義が何んな事になられたかお考へ遊ばせ、

昔は互自分計りを善人だなどと自惚を云ふ方はありませんでした、事實そんな事をすると極く卑しいと思はれて居りました、それが只今ぢや皆が皆な道徳熱に浮されて自分こそ清廉潔白其他七つの空有難い徳の化身だと計り矢鱈に人を攻撃する——其上旬の果てはと云ふと何で御座んす皆舐ごつこで九柱戯のやう順繰りに悪者になつて行くんぢやありませんか、一年だつて夜逃げをする人がない年はないんですから、疑獄など云ふものは其始め人を魅し少くも人の心を抽き終には其人を破滅させるんです、貴下のは一番醜い遣方です貴下はそれを何うかしやうたつて出来るものでは御座んせん、若し貴下が若い時、重任を負つた大臣の秘書官として國家の秘密を賣り夫れが爲め巨萬の富を作り榮譽の地位を贏ち得た其事が世間へ知れたなら貴下は政治界からは放逐に遇ひ一生日蔭で暮さなければなりません、詰る所ロバート様貴下は何故多望な未來のある前途を犠牲にして當の敵たる私と政界上の妥協をなさらうとしないんです、今となつては私は貴下の敵なんですよ、私は

さら思つて居ます、そして私は貴下より強者の位地に立つて居るのです、私には強力な勇士が屬いて居るのです貴下は高貴な位地でお居でになります、然しそれは反つて貴下の弱味で私に附け込まれると云つて何うすることも出来にならない、のみならず私は大襲撃をして居るので勿論私は人倫道德の何たるかを辨へて斯云う事を申すのではございませぬ、が公平に考へて貴下はこれをお容赦にならなければなりません、幾年かの古、貴下は賢い大それた事をおやりになつてまんまと甘い汁をお吸になつたんでしやう貴下は今度それに相當の償をしなければならぬのです、私共は晩かれ早かれ私共の爲た事に相當の値を拂はなければならぬのです、貴下には今拂ふ時が参つたのです、私が今夜お宅をお暇する前に貴下は彼の報告書を握り潰して例の計畫に都合の好い御報告をするやう私にお約束下さらなければいけません

ロバート、チルタン卿、それは無理と云ふもの私には到底不可能な事です、

ケベリー夫人 貴下はそれを可能なやうにしなければいけません、それを可能なやうにするのです、ロバート様、英國の新聞が何んなものですか御存じでしやう、まアお考へになつて御覧なさい、此れから直ぐに私が新聞社へ行くとして新聞種に此疑獄事件を打ち開けおまけに證據の手紙迄渡す……新聞社の喜びは如何計り直ぐ針小棒大な記事で貴下を泥水に曳擦り込んで終ひます、(ニヤ／＼微笑みながら)一面の論説に恥洒しの醜體を書き立てる記者を想像して御覧遊せ、何と嫌な事ぢやありませんか……

ロバート、チルタン卿 一寸お待ちなさい貴女は私に彼の報告を見合せて運河の計畫が實行されさうだと云へと御仰るんですね

ケベリー夫人(長椅子に腰を降して) 然うなんです

ロバート、チルタン卿(低聲に) 幾何でも金は出しますからそれだけは……

ケベリー夫人 ロバート様、いくら貴下がお金持ちだと云つて貴下の舊惡をそれで

買ふ譯には参りません、否や何誰でもそんなにお金持ではありません、

ロバート、チルタン卿 それでは仕方ありません私はお望みに應ずる事は出来ませ

ん 決してそれはなりません、

ケベリー夫人 貴下はさうしないでは居られないのです、若しさうおしにならないけ

れば……(と云ひながら長椅子より立ち上る)

ロバート、チルタン卿(途方に暮れて失神の體で) まア一寸待つて下さい、何と仰

いましたかね 私の手紙を返してやると仰つたのでしたね、さうでしたね……

ケベリー夫人 然うです それは承知してゐます明晩十一時半には婦人傍聴席に参つて居りますが若し其時迄に儀會で色よい御報告をなすつて下さるなら其時大喜びで彼の御手紙をお返し、ます、それ迄に充分其議會はありでしやう？私のお願ひが届いたなら其時こそは眞實に思ひだけの御禮を申し上げますよ 私は充分貴下のお爲めになるやうにと心掛けて居るんです 何でしたか何でも他の事で男爵がいつ

か手の好い役札を持つて居る此は卑屈な眞似をしないで他の人の爲めに堂々と勝負するのが肝心だと仰いましたか私もさう云ふ心掛けで居るんですの

ロバート、チルタン卿 少し考へさせて下さらなければ困ります

ケベリー夫人 否やたつた今お決め下さい

ロバート、チルタン卿 一週間……それでは三日でも良いですさうして下さい

ケベリー夫人 否や、それはなりません、私は今夜にでもヴェナに電報を打たなければいけないんです

ロバート、チルタン卿 ア、神よ、如何なれば斯く吾を苦しめ給ふや、

ケベリー夫人 因果應報ですよ（戸口へ寄る）

ロバート、チルタン卿 お待ちなさい、止むを得ません如何にもお言葉に従ひませう、あの報告はもうしない事にします 議會の方は何うかして置きます

ケベリー夫人 それは恐れ入ります、これで漸やく市が榮えたと云ふもの始めから

よく譯の解つたお方だと思つて居ました、貴下は私を餘り好く思つてお居でなかつたでしやうが私は貴下のお心をよく領解して居ましたよ、今度こそ私の馬車をお呼び下さい 皆様が御食事から上つて居らしたやうです、英國のお方は兎角御食後御粹な事をなさるので身體に穴を開けられる位嫌になります（ロバート、チルタンより離れる）

（來客等登場、チルタン令夫人、マークビー令夫人、カバリーシヤム伯爵、パシルドン令夫人、マーチモンソ夫人、ナンデエク子爵、モントフォルド）

マークビー令夫人 まあ、ケベリー御夫人様、充分お愉快になさつて下さいまし、ロバート様はあれで仲々お接待がお上手でいらつしやります、さうぢやありませんか、ねエ……

ケベリー夫人 エ、眞實にお上手です事よ大變お話が合つて面白ふ御座いましたわ、

マークビー令夫人 彼の方は仲々面白いそして名譽な御經歷を持つて居らつしやるのみならず至極お賢しい奥様をお持ちになつていらつしやる、チルタン御令夫人はそれは〜御見識の高いお方、私はもう年寄になつて他様の御手本になる氣力もなくなりましたがさう云う御方々には心からの尊敬を拂つて居るのです、でチルタン御令夫人は晩餐會でこそ時にはつまらないと感じる事がありますもの、仲々私共には有益な感化を持つてお出でになります、それは何誰にも缺點はおありですが缺點のないお方は恐らくありは致しませんわね、それはさうと私はもうお暇しなければなりませんの、明日お伺ひが出来ませうかしら

ケベリー夫人 何卒、

マークビー令夫人 五時頃公園へでもお伴致しませう、公園は今恰度若葉が出立て、凡てが活々として清々致します、

ケベリー夫人 人間ばかりは活々して居りませぬのね

マークビー夫人 人間は毎日〜馬のやうに働かなければなりませんから或はさうかもしれませんが、私はよくさう思ふんでございますが期節があつて時々人を慰めるので人間も少しは頭が休まると云ふものでございます、然し頭を使ふ仕事が一番困ります、これが一番人間に不爲なもので若いお嬢様のお鼻が漸次大きくなるのも一つはこれが爲め従つてお嫁入りが出来ないのもこれに因るのですよ、何故つて殿方は鼻の大きいお嬢様はお嫌ひになりますもの……まア御機嫌好らお休み遊ばせ、(チルタン令夫人に向つて) ガートルード様御機嫌好ら、(カパーシヤム伯爵と手を携へて退場)

ケベリー夫人 チルタン御令夫人、何て御立派なお邸でしやう、私は眞實に愉快に一晚を暮しましたよ且那樣とお近付きになつて大變面白う御座いました、チルタン令夫人 ケベリー御夫人、何うして夫にお會ひにならねばならなかつたんでござんす?

ケベリー夫人

アそゝれならお話し致しませう實は私亞然丁運河開鑿の事に就いて
旦那様に一儲けお勧めしたんでございませよ、亞然丁開鑿計畫の事は疾に御存じで
ございませしやう？處が旦那様のお疑深いつたら殿方には珍しい位……それも理の
當然なのをお疑ひ遊ばすんですもの……それを一分計りかゝつて御得心させたんで
すの、明晩は多分それに色の好い御演説を議會でなさるでござんしやう、私共は傍
聴席へ行つて其御演説を是非承らなくてはなりません！
チルタン令夫人 何かお間違になつて居るに違ひありません、あんな計畫に夫が賛
成する筈はないのです

ケベリー夫人

否や、もう既定の事實なんですから……私はヴェナ下りから遙々や
つて来た益があつたと今では喜んで居るのでございませそれは大成功でございまし
た 然し云ふ迄もなく二十四時間内は凡て堅い秘密なんですよ、
チルタル令夫人(靜かに) 秘密とは？ 何誰と何誰との？

ケベリー夫人(玩弄心を眼に仄かせながら)

旦那様と斯く申す私との秘密

ロバート、チルタン卿(室に入りながら)

あゝケベリー御夫人馬車が來ました

ケベリー夫人

然うでございませるか恐れ入ります、それではチルタン御令夫人、御

機嫌好ら

ゴーリン子爵様、お休み遊ばせ、クラリツヂの旅館に滞在して居ります、

御名刺がありましたら戴けますまいかしら

ゴーリン子爵

お望みなら差上げます

ケベリー夫人

まあそんなに御勿體お附け遊ばさなくとも宜しいぢやありませんか

若し御惠與下さるなら有難く頂戴致します

英國ではそれが別に堅るしい事であるんであないでしょう、外國でさへモット開け
て居ります、ロバート様、階下迄お送り下さいませんか？お互に心から同じ利害關
係に居るんですから大の仲好しになりませうねエ、(ロバート、チルタン卿の腕にす
がり帆走り去るチルタン令夫人は階段の頂上より降り行く兩人を見降し心を煩はす

間もなく二三の來客と連立ち他の應接室に去る)

マベル、チルタン嬢 何んと恐ろしい方でしやう！

ゴーリン子爵 マベル嬢様、もうお休みなさい

マベル、チルタン嬢 マア、ゴーリン子爵様！

ゴーリン子爵 私の父は一時間も前から私にもう家に歸つて寢ろつて云ふんですよ、だから私も其傳でお休みなさいと云つたのです、私はいつも人に云はれた益になる忠告は人にもして上げるのです、それより外に仕方がない、自分丈けなら別に役にも立たず無駄になつて終ふ

マベル、チルタン嬢 ゴーリン子爵様、貴郎はいつも私を邪魔扱ひになさる、氣がお強過ますわ、殊に未だ三時間や四時間は寢は致しませんもの(長椅子に近寄り)マア此方へお出せ遊せ、王室學士院やケベリ夫人がスコッチ謬の小説以外の事でしたら何なりとお話し致しませう斯様なものは時世晚れなんですもの(長椅子の上の敷

蒲團に半ばかくれて居るものに眼をつけ)何でしやう何誰かダイヤ入の首飾を落していらした、まア奇麗な事、何と美しいんでしやう(彼に示す)私も此んなのを慾しいわ、けれど姉さんが眞珠より外着けさせないんですの、眞珠ももう嫌になつてよ、眞珠は人を淡泊で理性的に冷く見せますわ此れは何誰のでしやう、

ゴーリン子爵 誰のでしやうね、

マベル、チルタン嬢 奇麗な首飾ですのね

ゴーリン子爵 それは好い腕輪です

マベル、チルタン嬢 あら、これは腕輪ではありませんわ、首飾ですよ

ゴーリン子爵 腕輪にだつて使へます(彼女より首飾を取り綠色の手箱を出してこれに叮嚀に藏め再び平然と衣囊にそれを入る)

マベル、チルタン嬢 貴郎は何をなさるのです

ゴーリン子爵 マベル嬢様、私は何れかと云へば奇妙なお願をしやうと思ふんです

マベル、チルタン嬢(熱心に) 何卒遊ばして下さいませ、今夕中お待して居ましたわ

ゴリリン子爵(少し退ひて然し落着いた調子で) 此首飾が私が保管していると誰にも

云はないで下さい、誰か手紙か何かで問合せて來たら直ぐ知らして下さいね、

マベル、チルタン嬢 まあ妙なお願いですね

ゴリリン子爵 幾年前でしたか私が之を或る人に遣つたのを御存じでしやう

マベル、チルタン嬢 然うですか?

ゴリリン子爵 エ然うなんです

(チルタン令夫人單身室に入來る、他の來客の姿は一人も見えず)

マベル、チルタン嬢 それでは失禮します、御機嫌やう、姉様、御機嫌好らお先に

……(立去る)

チルタン令夫人 御機嫌好ら、(ゴリリン子爵に) 貴下は今夕マークビー御令夫人が

連れてお出でになつた御方を御存じでしやう?

ゴリリン子爵 知つて居ます、不快な驚きに打れましたよ、何しに來たんでしやう

チルタン令夫人 それは無論御自分が金儲けになつた或る山師計畫のため夫をそ

ゝのかしに參つたんですよ、つまり亞然丁開鑿の事なんです、

ゴリリン子爵 彼の人は自分の夫を憎落させたんでしやう、さうぢやないですか

チルタン令夫人 彼の方に夫の豪直な御氣性がお解りにならないんです

ゴリリン子爵 然うです、ロバート君なんかを係蹄に落さうなどしたら後悔します

よ、それが小賢しい婦人のする大間違です

チルタン令夫人 そんな婦人に賢いなど仰つては勿體ない、私はそんな方は愚だ

と云つてやりたいんです

ゴリリン子爵 大底は同じ事です、チルタン令夫人、お機嫌様、

チルタン令夫人 御機嫌好ら(ロバート、チルタン卿入來る)

ロバート、チルタン卿 アイサー君、お歸りですか、一寸待つて下さい、

ゴロリン子爵 さうして居られませんか。私はハートロックへ寄りなければならぬ、あそこでは紅紫色葡萄牙楽隊を作へたんです。それが紅紫色葡萄牙音楽をやるんです、近い中に行つて御覧なさい、さよならお機嫌様！（去る）

ロバート、チルタン卿 ガトルードや、今夜は馬鹿に美しく見えるね

チルタン令夫人 貴郎、それは嘘でしやう、眞實ですか、まさか此亞然丁の投機事業に助手をなさるやうな事はないでございませうね、する筈がありませんもの

ロバート、チルタン卿（驚いて） 誰がそれをするつてお前に云つたのだ、

チルタン令夫人 たつた今出て行つた御婦人—ケベリ—御夫人と名乗つて居らつしやる方、あの方は其事で私を嘲弄なすつたんです、貴郎、私彼方をよく知つて居ますんですよ、貴郎は御存じない、御夫人と私とは一つ學校に居たんです、彼の御方は嘘吐きな恥知らずな悪感化に至る所時き散して居たんです、私は彼の人が大嫌で見ると唾でも掛けてやり度い位です、人のものを盗む大盗賊なんです、それが爲

め退校されて終ひました、何んでそんな方の云ふ事に耳を貸すんです

ロバート、チルタン卿 ガートルード、それはさうに違ひないかも知れんが然しそれは數年前の出来事なんだ、忘れられりや結構だが其時とはケベリ—夫人も大分變つたに違ひない、人を判断するに過去の事計りでするのは未だ當を得て居るものとは云はれない、

チルタン令夫人（悲しげに） けれども過去の事實は其人現在の事實を示すものですわ、これが人を忖度する唯一の法と云ふものです

ロバート、チルタン卿 それは難しい事だ、

チルタン令夫人 それは眞實です、して彼の方が貴郎を御得心させて貴郎の御後援を不正な山師的なあの計畫に願ふやうにしたと云つて大層に自慢らしいお話しでした事は何云ふ事なんです？貴郎はあれを生涯出會つた一番不正な山師仕事だと報告書にお書きになつたのでしやう？

ロバート、チルタン卿（唇を噛みながら）　これは私の間違だったんだ、誰だつて間違ひつて云ふものはある

チルタン令夫人　けれどあれでしやう昨日参つた調査委員からの手紙に全く山師仕事で到底駄目だと書いてあると御仰つたぢやありませんか、

ロバート、チルタン卿（彼處此處行つたり來たりしながら）　それが調査委員の偏見或は間違であるとする譯があるのだ　のみならず公事と私事とは別問題、各其倚る所其働く範疇と云ふものがある、

チルタン令夫人　公私共男子たる面目を代表せなければなりません、私には違があるとは思へません

ロバート、チルタン卿（立停つて）　現在の境遇から、實際の政略上心を更えたと云ふ丈さ

チルタン令夫人　それ丈けですか

ロバート、チルタン卿（厳しく）　さうだ

チルタン令夫人　貴郎は何と云ふおそろしいお心におなり遊ばしたんでしやう、かやうな事を口にしたく御座いませんが貴郎はこれで全部事實をお打開け下すつたのですか

ロバート、チルタン卿　何んだつてそんな事を聞くのだ

チルタン令夫人（間を置いて）　何故譯をお話し下さないんです

ロバート、チルタン卿（坐りながら）　然し事實と云ふものはさう單純なものではないのだよ特に政治上の事など云ふものは複雑なものだ渦の中に渦が巻いている人と云ふものは他人に何らかの拘束を受けて居てそれを果さなくてはならない、政治生活に於て早晚妥協しなくてはならない時が来るのだ、誰でもするんだ、

チルタン令夫人　妥協とは？　貴郎、何うして今日に限つてそんな情ない事を御仰るんです、何故さう裏返しにおなりになつたんです

ロバート、チルタン卿　私は裏返になぞなりはしない、然し事情が凡てをさうして
終つたんだから仕方がない

チルタン令夫人　いくら事情でも主義迄變へる必要はありません、

ロバート、チルタン卿　けれど若し私が斯云ふ事を云つたら……

チルタン令夫人　何でございます？

ロバート、チルタン卿　それは仕方がないんだ事情止むを得ないんだねエさうなん

だろ!!!

チルタン令夫人　不名誉な事をさせられる必要は少ともありません　若しそれが止
を得ないと云ふならば私が貴郎を愛して居ると云ふ事實は何うしたのです、止むを
得ないのではないのです　さう御仰つて下さい、何うしてそんな筈がありません、
何んな利益がそれに依つてあると云ふのです　お金ですか　私共はお金に用はない
又汚れたお金は身の墮落です、権力ですか、権力それ自身も何の尊い所もない、權

力の尊い所は善をする所にあるのです外に……外にもありません、それでは何
の爲めですか——何の爲めに斯様な不名誉な事をなさらうとするのです!

ロバート、チルタン卿　ガートルードや、お前がさういふ事を云ふものではない、
當然な妥協の問題なんだ、それ以外何にもありはしないんだ。

チルタン令夫人　外の多くの、生活を唯下劣な投機事業のやうに思つて居る人達な
らそれで好いかも知れませんが、然し貴郎が……貴郎が……何うしてそんな事が出来
ませう、貴郎は他の人とは別です、貴郎の全生涯は他の人とは全く距け離れたもの
でした、貴郎は全く世間に汚れず清くお出でになつた、世間に對しても又私に對し
てもいつも理想的な方でしたオ、何卒終り迄理想であつて下さい、其大切な家寶を
捨て、終らないで……其立派な高殿も壊さないで下さい、殿方は卑賤な事取るに足ら
ない汚れた不名誉な事にも半氣で御愛着なさる　私共女と云ふものは其れは好い
となつたら狂氣になる位愛しますが嫌となつたら直ぐにも投げ出して終ひます、オ

何卒後生ですから私の貴郎に對する愛着を毀損しないやう、何卒お願いです、

ロバート、チルタン卿　ガートルードや、

チルタン令夫人　世間によくある、殿方の生涯には恐ろしい秘密の影があつて前に破廉恥な行爲をしたが爲め今度或る際どい時になつて二度と再び破廉恥を犯さなければならぬ事になる……何卒そんな事でないやうにして下さい、貴郎よ、貴郎の御生涯のいづれかにそんな破廉恥な不名譽な秘密があたりですか、何卒お話し下さい何卒お話しして下さいませ、その事……

ロバート、チルタン卿　その事とは何う云ふ事なんだ

チルタン令夫人（至極緩かに）　二人の生活が別々になる事なんです

ロバート、チルタン卿　別々？

チルタン令夫人　エ然うなんです全く離れ〜になるんです、その方が双方の爲めに好いと思ふので御座います

ロバート、チルタン卿　ガートルードや、お前に知れて悪い事なんか決してありはしないんだ、

チルタン令夫人　私はさうと思ふんです、眞實にさうと思つて居ます、けれど何故あんな恐ろしい貴郎に似もつかない事をお云ひになるのです、もう彼様な事は互云はないやうにして下さい、あゝケベリー夫人にお手紙で彼の方の山師計書には賛成が出来ませんでさう書いてお遣り遊せ、若しお約束があるならお打消しなさい、それだけ……何うか後生ですから

ロバート、チルタン卿　そんな事を書くのかいな

チルタン令夫人　さうですとも！　外に何んな事をするんです、

ロバート、チルタン卿　直接會つて話した方が好いと思んだ

チルタン令夫人　もう二度とお會ひになるのは御無用です、彼んな方は貴郎とお話なぞすべき人ではありません、貴郎のやうな方とお話するには汚しい方です、直

ぐ、たつた今お書き遊せ、そして貴郎の決心のお堅い事を示しておやりなさいませ
ロバート、チルタン卿 たつた今書け？

チルタン令夫人 さうです

ロバート、チルタン卿 然しもう晩い、十二時になる、

チルタン令夫人 晩くとも何でもありません、貴郎を誤解して居たと云ふ事を一刻も早く悟らしてやらねばいけませんしそれからそんな下品な蔭仕事な不名譽な事をするやうな人間ではないと云ふ事も序に、さアお書き遊せ、詐欺な計畫だから御助力は出来ないつて……然うです詐欺と云ふ字をお使ひなさい、彼の方は其字義をよく知つて居ます（ロバート、チルタン卿座して手紙を書き始む—書き終ればチルタン令夫人それを取り上げ讀む）エ、これで宜うございます（鈴を鳴らす）今度は上書き、（彼は上書きを緩慢に書き始むとメーソン登場）クラリツヂの旅館にこれを持たしてやつてお呉れ、返事はいらぬのだから（メーソン退場、チルタン令夫人

は良人の側に跪き、其腕を以て良人を抱擁す）貴郎、愛と云ふものは物に對する本性を人に與へます、私は今晚貴郎を危難から又貴郎の名譽を毀けるやうな事からお救ひしたので、貴郎は貴郎が現在の政界に今迄あつたより尙ほ一層高尚なる勇氣、人生に對する一層立派やかな態度、尙ほ清い尙ほ高い理想の一層自由な空氣を吹き込まれた事を御氣がつきにならない——然し私はそれを知つて居ますとして其故に貴郎をも愛します、

ロバート、チルタン卿 オ、いつまでも—愛して呉れ、ガートルード、いつ迄も永遠に……

チルタン令夫人 永遠に永遠にお愛し致しますともお愛しする丈の價値があるので、私共は最高のものを見た時それを愛さねばなりません（彼に接吻し、起ち上り退場す）

（ロバート、チルタン卿は彼方此方暫時の間道遙したる後座して兩手に顔を埋む

と僕入来り燈を消さんとす、ロバート、チルタン卿それを見上げて

ロバート、チルタン卿 燈を消せ、メーソン!

(僕は燈を消す、室内は殆んど暗黒となり唯一の階段上に掛けられたる大燭燈より漏れ来る微光淡く「愛の勝利」の綴帳を輝かす)

(幕)

第二幕

場面

ロバート、チルタン卿邸私室、

(ゴリン子爵、流行の粹を凝らした装ひキビくしく安樂椅子に凭る ロバート、チルタン卿は爐邊にあり非常に精神興奮せるもの、如く云ひ知れぬ心の煩悶は其眉宇に讀まる、場面の進行と共に室内を彼方此方往來し始む)

ゴリン子爵 ロバート君、夫は夫れやまづい、非常にまづい遣方だ、君は奥様に全部話して終つた方が好い、他所の妻君に秘密主義を守るのは現代生活に必須條件ださうだが然し自分の妻君に秘密を守ると云ふ法はない、奥様は其事を屹度覺つて終ふから、婦人と云ふものは斯云ふ事に掛けては不思議な本能性を持つて居るもので秘密と來たら何んな事でも屹度嗅ぎ出さずには置かないんだから……

ロバート、チルタン卿　アーサー君、妻に萬事話せて云つたところで何時話すのか
僕は到底打ち明ける事は出来ない　僕は昨夜餘程打ち明け様と思つたんだが駄目だ
つた、若し話したら私と妻とは永遠に會ふ事の出来ない様な破目に陥つて　私の心
を炎して戀したたつた世界に一人しきやない女の戀を失ふて終ふのだ　昨夜僕は何
しても話す事が出来なかつた　若し話したら夫こそ慌怖し侮蔑し愛想をつかして終
うだらふ

ゴーリン子爵　一體君の妻君は左様に眞面目なのかね、

ロバート、チルタン卿　イヤ夫は僕の愛は堅い者だよ

ゴーリン子爵(左手の手袋を抜き)　君に氣の毒な話だね、僕には失禮だが左様思え
ない、若し君の云ふ通り間違がなけれや僕に少々聞きたい事がある

ロバート、チルタン卿　夫は駄目だ止して呉れ給へ

ゴーリン子爵　お話して見様か、

ロバート、チルタン卿　そう云ふ分には差支ないけれど云つた處で何も妻の評價を
變える事は出来ないんだよ

ゴーリン子爵　けれど少くとも心理實驗であるからね

ロバート、チルタン卿　實驗なんか危いもんだからね

ゴーリン子爵　それや君皆危険ものさ世の中の事が何でも危険でなかつたら生活は
無意義なものになつて終ふ……僕は何年か前に君が妻君に一度は云つたと思ふ事を
話そうと云ふのだ

ロバート、チルタン卿　それは何時の事を云んだ？　約束した時の事を云ふのか？

では君は僕が何して財産を造つたか僕が何して今日の地位を得たか又は恥だ不名譽
だと世間で云はれるやうな事を爲たと妻が知つて居た所で妻は僕と結婚したに相違
ないと思ふのかね？

ゴーリン子爵(徐ろに)　さうさ、それやいづれ世間では何や彼や酷い事を云ふに定

つてる、それや云ふに違ひない

ロバート、チルタン卿(苦々しく) 然し人は誰でも毎日罪を犯して居るんぢやない

か、人はお互に自分の秘密を持つて居るもんだ、

ゴリン子爵 だから人は外の人の秘密を見出して喜ぶんだ、而して世間の評判を

失させやうとするんだ、

ロバート、チルタン卿 それぢや僕は一體悪事を誰にした事になるんだ、別に誰に

したとも思へない、

ゴリン子爵(屹と彼を凝視めて) 君以外總の人にしたんさ、

ロバート、チルタン卿(間を置いて) 夫は勿論僕は政府の事業に關して公事を私用

に利用した今日の巨額な財産もつまり皆官権利用で出来たもんだ

ゴリン子爵(杖にて靴をうち) だから收賂事件と云ふ落になるんだ

ロバート、チルタン卿(部屋の中を彼方此方逍遙しながら) アイサー君、僕が十八

年前にした事が今になつて事件を起すなんて君想像がつくかね? 青年時代の失敗

を以て其人全體を破壊するは公平な事と思ふかね? 僕は斯の時は二十二だつとよ

而して境遇と云へば家柄は好かつたが貧乏人だつた夫は今でも忘れる事が出来ない

ものだが青年時代の悪戯否や世間で云ふ罪——其のため一生を破船せしめ身は恰も

斷頭台にあるが如く折角の骨折り折角の計畫を水泡に歸せしめると云ふのは君、公

平だと考へられるかね、

ゴリン子爵 ロバート君 夫は人生と云ふものは決して公平なもんぢやない、公

平でないから却つて好いのかも知れない、

ロバート、チルタン卿 野心家は自己の武器で戦はなくてはならん今は黄金萬能の

世の中だ、富と云ふもの以外我々の宗教はないんだ、だから今日成功しやうとする

には先づ金がなくては駄目だ、何うしても金がなくては駄目なんだ

ゴリン子爵 馬鹿を云つちやいけない、ロバート君僕は君が金などなくとも今日

の成功は充分得られたらうと思ふ

ロバート、チルタン卿　僕が老朽れて居たら出来たかも知らん、権力に對し熱情を失ふか、さうでなくとも其熱情を使ひ得なかつたなら或は又疲勞し倦怠し希望も何も無くなつて居たらさう出来たかも知らん、僕が若い時には成功に熱中して居たんだ、若い中成功しなければ成功する時はないのだ、僕は其屈託に安閑と待つて居られなかつたんだ、

ゴーリン子爵　夫れや君の云ふ通り君は若い内ズツと早く成功した、實際僕等の中で君位立派に成功した者は未だ居ない四十代で外務次官なんか人間も其位出世をすれば好いと云ふもんだ

ロバート、チルタン卿　然し若し僕が今總ての物を奪あれ、不正のため何もかも失して終ひ其上官界から放拂はれたとしたら……何にもなりやしないから

ゴーリン子爵　ロバート君　君は好くまゝ金のために君を賣る事が出来たね、

ロバート、チルタン卿(發奮して)　否や僕は金のため身を賣つたのじやない　僕は

高い金を出して成功を買つたのだ其丈の事、

ゴーリン子爵　さう君は成功するに高い價を拂つた　だが一體君を其處迄に爲たのは誰なんだ

ロバート、チルタン卿　夫はアーンハイム男爵さ

ゴーリン子爵　實に怪しからん奴だ

ロバート、チルタン卿　否や男爵はあれで仲々伶俐な新智識に富んだ修養人望見識の兼備つた一個の人物だ、僕か今迄會つて一番偉いと思つた人の一人なんだ、

ゴーリン子爵　僕は寧ろ紳士らしい愚人の方が増しだと思ふんだ、愚人と云ふものには世間で思つて居るより好い所があるからね、僕自身としては愚人に多大の尊敬を拂つて居るんだ或は是れが僕の同類感と云ふものかも知らん然し何うして其んな事を彼が持掛けて來たんだ、全部の話を聞かうぢやないか、

ロバート、チルタン卿(机の傍の安樂椅子に身を投げて)

或る晩の事、恰度ラドレ

「卿の晩餐會の後だ男爵が現代に於ける成功と云ふやうな事を話したことかあつたが其時男爵は夫が科學的に行くもんだと云ひ出し彼の妙に人を引付ける靜かな聲で眞面目に哲學と云ふ哲學の最も恐しい哲學——拜金宗の哲學を説いた、其効果疑ひ無しと見たのか四五日してから手紙で遊びに來いと云つて來た、其男爵はパーク、レーンの、ウールコム卿が今特てる家に住んで居たが僕は今でも男爵が着白な垂れ下つた口唇に笑を造つて素敵な美術室に案内して綴張や瑤瑯や寶玉それから象牙の彫刻等を見せて僕に男爵の數奇を凝し贅を盡した生活を示し僕の好奇心を誘ひそして又贅澤など云ふものは芝居で云えば舞台の背景に過ぎない他人の上に立つ權力世間の上に立つ權力は丈夫の持つ可き物だ超然の快樂は丈夫の知る可き快樂だ快樂に快樂と追えば決して飽きるもんじやない 今日其快樂を持て居るのは富者に限られて居ると云ふやうな事を云つたのを憶えて居る、

ゴーリン子爵(慎重に)

實際淺薄な考だね、

ロバート、チルタン卿(立ち上り)

イヤ僕は其時左様思はなかつたが今もさうは思

つて居ない、富は僕に非常な力を與えて呉れた、富は僕の危機に際し自由を與え呉れた僕は自由は何よりだと思ふ、君は貧乏した事がないから野心でふものを知らないんだ君は男爵が僕に與えた機會が何んなものだつたか理解する事は出來ない、そんな機會と云ふものは滅多に人が與へて呉れるもんぢやないのだ

ゴーリン子爵

君の云ふ機會を結果から考えたら何だろふ 夫は左様として男爵が

何な方法であんな事を君に説得したのだ

ロバート、チルタン卿

僕がお暇しやうとした時男爵は君がものになりそうな秘密

を僕に知らせたらいくらでも金持にしてやると云つた、僕は其時男爵が提供した約束に目が暈むで私の權力に對する野心と欲望はもう堪えられない様に私の心に追つて來た、夫から六週間程してから、ある機密を私が取扱つた

ゴーリン子爵(毛氈の上を見つめ) 政府の機密だね、

ロバート、チルタン卿 そうだ(嘆息しながら頭を搔く)

ゴーリン子爵 世間の人は何かしらんが僕にはロバート君 君が男爵からの誘惑に陥つたなんて左様弱い男だとは思へない

ロバート、チルタン卿 弱い? 僕は其言葉を聞くと反吐が出たい程嫌になる弱いなんて其んな言葉を使ふのは大嫌だ アーサー君 君は人が誘惑に陥るのは其人が弱いからだと言ふんかね、僕は誘惑に陥るには其處に非常な勇氣と力とを要すると思ふ 一身を危険な瀬戸際に置き乗るかそるかの場合に譬ひ權力を得むが爲にしろ或は快樂を得んがためにしても其危険を冒すには到底弱者の出來得べき事ぢやない、實に恐ろしい勇氣を要するんだ、僕は其勇氣を持つて居たんだ、それ故其午後今ヶベリー夫人が持つてる手紙をアーンハイム男爵に送つた、其結果男爵は七十五萬圓と云ふ大金を濡手で粟に擱んで終つた

ゴーリン子爵 それから君は何うした?

ロバート、チルタン卿 僕かね 僕は男爵から百十萬圓と云ふものを貰つた、

ゴーリン子爵 もつと貰つたらふ、

ロバート、チルタン卿 イヤそれ丈だ其金だけあれや僕が欲しいと思つてた權力を得る事が出來たので、夫から僕は直に議會に入つたが財政の事に就ては常も男爵が注意して呉れて五年經ぬ内に三億の財産を得る事になつた、それからと云ふもの手を出す事が皆面白い程成功して金の事ときたら萬事が氣味が悪い程幸運だつた、僕は其時嘗つて讀むだ外國書物の中に祈は罰せむとする前は先づ其人の祈に答へてやると云ふ事が書いてあつたのを憶へてる

ゴーリン子爵 君は自分が爲た事を後悔もしなかつたかね?

ロバート、チルタン卿 後悔處か僕は此の武器を以て時代の潮流と戦ひ惡戰苦闘の後遂に勝利を得たと云ふ寧ろ一種の誇を感じたよ、

ゴーリン子爵(悲しげに) 君は夫で勝利を得たと思つて居るのか、

ロバート、チルタン卿 僕は勝利を得たと思つて居る(少し間を置き)アーサー君
君は僕の話した事を侮蔑して居るんだね、

ゴーリン子爵(深い感をした聲で) ロバート君 失敬だが君のやつた事は間違つて
居る、

ロバート、チルタン卿 僕は此事に後悔した試はない、しかも普通の意味でしない
のでなく後悔なんて下らぬものだと思つてしないのだ、僕は僕の贖罪金を幾度拂つ
たか知れない、其度毎僕は自個の運命から逃れて自由な身體になりたいと云ふ野猪
のやうな希望を持つた、で男爵から貰つた金の内から一度ならず二度迄慈善事業に
寄附をした

ゴーリン子爵(見下けながら) 慈善事業に寄附した? 害な事をしたもんだ

ロバート、チルタン卿 そんなに云つて呉れるな、アーサー君そんなにけなさない

でも好いぢやないか

ゴーリン子爵 お氣に觸れたら失敬よ、僕は云つてならん事を云ふ癖があつていか
ん、實際僕は思つた通り何でも云つて終ふが今となつては大なる間違だ、それは人
を誤解させる因になり易い、此度の事件に就いては僕が出来る丈君を助ける心算だ
此んな事は云はなくとも承知して居るだらう

ロバート、チルタン卿 アーサー君 忝けない 君の好意は大に感謝して居る 然
し何うしたら好いだらふね

ゴーリン子爵(手を衣袋に入れ後に寄りかゝつて) サイ英國人でもものは自分から正
しいと公言して居る人は決して許さない、が自分から悪い事をしたと改心さへすれ
や喜んで許して呉れるもんだ。夫が英國人の英國人たる處と云ふもんだ、然し君の
此度の事に就てはロバート君 君に告白して改心したと云つた處で仕様がななんだ
君は怒るかも知れないが金と云ふものは極くまづいもんで君が其事を白狀して終つ

たらそれこそ青天白日な心になつた所一度さうした事があつたら君二度と再び道德の事なんか話す事は出来なくなるんだ 英國では一週に少なくとも二度位は公會で倫理道德の話が出来なくちや政治家の資格はないと云ふもんだからね そらすると君はもう植物の採集をやるか教會の人となるより外職業としては仕方がないんだ、告白は止めた方が好い何も役に立たないのみならず却て君の身を亡す因だから

ロバート、チルタン卿 夫は身の破滅になるのは必然だ もう今になつてはやれる丈圖々しくやつて見る其以外に仕方がないんだ

ゴーリン子爵(椅子より立ち上り) ロバート君 僕は君が左様云ふのを待つて居た今はもうそろそろするより外仕方ない 君先づ妻君に委細を話してからの事にし給へ、

ロバート、チルタン卿 否や、話すまい

ゴーリン子爵 構はない僕の言ふ事を信じてさうし給へ、夫は君の誤りと云ふもんだ、

ロバート、チルタン卿 夫は出来ないうさうしたら妻の愛を殺す様なもんだ 今はそのケベリー夫人だ僕は何したら彼奴を防ぐ事が出来やうか 君は確かあの女を好く知つてた様だね、

ゴーリン子爵 ウン、好く知つてる、

ロバート、チルタン卿 今でも知つてるのかね

ゴーリン子爵(ネクタイを直しながら) 僕がテンペイ君の家に居つた頃結婚の約束までした位だからね、尤も約束と云つて三日計で破談になつて終つた

ロバート、チルタン卿 何して破談になつたんだね

ゴーリン子爵(調子づいて) 夫は忘れて終つた、そんな事は何うでも良い君は彼に少し握らせて見たかね、彼の婦人に金と云つたら大變なんだからね、

ロバート、チルタン卿 いや金で済む事なら幾程でもと云つて見たが金じゃ駄目だつた、

ゴーリン子爵 君が前に地獄の沙汰も金次第と云ふやうな事を云うてたが矢張り駄目らしいね金持でも時には自由にならない事がある

ロバート、チルタン卿 ヤー君の云ふ通りだ、アーサー君、僕は何んだか社會から悪評される様な氣持がする何んだかそうらしい氣がしてならない僕は今まで全く怖など云ふ事は知らなかつたが今始めて知つたよ何だか氷の様に冷たい手を心臓の上に置かれた様な氣がする、何だか心臓自身が死ぬ穴でも掘つてる様にどきどきする、

ゴーリン子爵(卓を叩いて) ロバート君 君は彼の婦人と最後迄戦かはなくてはならん大に戦つてやり給へ、

ロバート、チルタン卿 然しサー、何して戦ふのか？

ゴーリン子爵 夫は僕も今何も考へて居ないから云ふ譯には行かんが誰れにでも弱味と云ふものはあるもんだ 御互に欠點でもあるものはある(爐の傍に歩み寄りながら其

の上にある鏡に自分を映し見る) 僕の父は僕にさへ欠點はあると云つたからね 夫れや僕にも欠點があるかも知らん、或はあるだらう、何うだか知らない

ロバート、チルタン卿 ケベリー夫人には何な武器を用ゐても僕は構はないと思ふが何うだね、

ゴーリン子爵(猶鏡に見入りながら) 今の場合そんな事は些とも構はないと思ふ、彼の婦人はあれで仲々用心が好いからね、

ロバート、チルタン卿(テーブルの前に腰かけて鐵筆を取る) おや僕は暗號電報でヴェエナの大使に彼女の事に就て何か知つて居ないか尋ねて見やう 屹度恐しい秘密があるに違がない、

ゴーリン子爵(ボタンを嵌めながら) ケベリー夫人て云へば所謂當今の新らしがる女の連中で新流行のボオネットに似つかはしい新疑獄を見つけては毎日午後五時半頃公園に兩方の店開に行くんだ、彼女は疑獄が好きに違ひないんだ、此頃の心配と

云ふのも其が甘く行かないからなんだ、

ロバート、チルタン卿(電報を書きながら) 君何うしてそんな事を云んだ

ゴーリン子爵(邊を見廻して) 何うしたつて昨夜など極い装をして居たよ全で服で

ない様なもんを着て居たんだ婦人があんな風をして居るのは屹度何か失望した事があるに違ひない、

ロバート、チルタン卿(ベルを鳴らし) ヴエナに尋ねても其丈の甲斐があるかね、

ゴーリン子爵 尋ねてやり給へ答へるのは、無駄な事もあるか知らんが尋ねる分には損はないよ

(メーソン入り來たる)

ロバート、チルタン卿 トラフオード君は部屋に居るかね?

メーソン ハイ、お居でになりますので御座ります、
(書いたものを封筒に收め叮嚀にそれを封じ)

ロバート、チルタン卿 是を直ぐ暗號電報で出す様に云つて呉れ、一分も後れないやうに

メーソン ハイ、承知致して御座ります

ロバート、チルタン卿 オイ、一寸夫をもう一度見せて呉れ、何か状態の上に書く、メーソンは手紙を持つて退場)

ロバート、チルタン卿 彼の女屹度アーン、ハイム男爵の弱所を何か握て居たに違ひない 何んなものを掴んで居たのかしらん

ゴーリン子爵(笑ひながら) さうだね

ロバート、チルタン卿 彼の一件が妻に知れる迄は一つ遣れるつたけ彼女と戦かつてやれ

ゴーリン子爵(語強く) 何んな事があつても飽まで戦つて見給へ

ロバート、チルタン卿(失望の身振で) 妻が氣附いたら最後—それも駄目だな ヴ

エナから返事があり次第君に知らせる様にしやう まあ機會と云ふもんだ——全く機會に相違ないからね まあ然し機會を信じてやるさ、僕は今迄時代と云ふもの、武器で時代と戦つたんだから彼の女とも亦彼女自身の武器で戦かつてやるそれが公平な遣方だ、して彼の女も一癖ありさうな女ぢやないか、

ゴーリン子爵 夫れや大概な女がさうなんだ、然しね、上衣に流行がある通り彼の婦人の一癖と云ふものにも種々流行と云ふものがある、でケベリー夫人などの一癖と云ふのは今ぢや仲々疎末なもんだが過去に於ては夫は——仲々華麗なもんだよ、のみならずロバート君、僕はケベリー夫人を嚇さうと努めて見た處が駄目だと思ふケベリー夫人を嚇して直ぐ嚇せるやうな女だと思つたら失敗だ、彼女は自分の債權者にも平氣の平座それで後ではあつと云はせるやうな事をする豪の者だからね、夫は氣が落付いて居るつたら不思議な程だ

ロバート、チルタン卿 僕は今希望の上に立つて居る、僕は何んな機會でも脱がし

やしない 僕の身體は今破滅しやうとして居る船の上にある様なもんだ、水は足もとを取り圍んだ、而して嵐に身は千切れる計りだ……おや妻の聲がする

(散歩服を着けたチルタン夫人登場)

チルタン令夫人 ゴーリン子爵様御機嫌好う

ゴーリン子爵 ヤ、御令夫人公園にお居でましたか？ そろですか御機嫌様

チルタン令夫人 否、只今婦人自由協會から歸つて来た計りなんですの、序でですか

貴郎彼處では貴君の御評判が大したもの、私今一寸御茶に歸つて来たんですの(ゴーリンに向ひ) 少しお待ちになつて一所にお茶でも召し上れ、如何？

ゴーリン子爵 どうも有難う夫では少しの間お待ちしませう

チルタン令夫人 私直ぐ歸つて来ます一寸帽子を置いて参りますから、

ゴーリン子爵(慇懃に) 何うか左様なさらないで拜見させて下さい眞實に奇麗です

ね私は未だ斯な奇麗な帽子を見た事がない 嘸ぞ婦人自由協會では大評判でしたろ

ふ、

チルタン令夫人(笑ひながら)　ゴーリン様種々と大切な用事があるんですものお互の帽子なんか、氣を止める人なんか御座いませんわ

ゴーリン子爵　左様ですか大切な御用事つて云ふのは一體何んな事なんです?

チルタン令夫人　嫌な事や大切な事や嬉しい事や種々でございますの工場法案、

女監督案、八時間案やら議會投票權提案やら何れも是も貴公のお嫌なもの許り

ゴーリン子爵　では帽子の事は一寸も御相談が出ないんですか、

チルタン令夫人(威嚴を装ひて)　否、帽子の事など何うして〜其んな問題ぢやな

いのですよ、(チルタン令夫人其部屋に通ずる戸を押し開き立去る)

ロバート、チルタン卿(ゴーリン子爵の手を取り)　アーサー君、君は全く僕の親友

だ眞實僕の親友であつて呉れた、

ゴーリン子爵　僕は君に對し多くを盡したか何うか甚だ疑問だ、實を云ふと自分な

がら恥しい程何の益にも立つて居なかつたんだ

ロバート、チルタン卿　僕は今君に眞實を語る事が出来たのだ、眞實は何か不可抗

な或るものに違ひない、僕は其眞實を誰にも話す事出来ず獨りで苦惱して居たんだ

ゴーリン子爵　ア、そんな事か、僕は成可、眞實なんか敬して遠けて居るんだよ!

然し序ながら是は僕の好くない習慣かも知れない、事實是が爲め倶楽部の先輩に評

判甚だ好しくないんだ、其云ふ人々は其れを忘相だなど云つて居るが或はさうかも

知れない

ロバート　チルタン卿　僕は眞實を語り眞實に生きる事が出来たらといつても、怨め

しく思ふんだ　眞實の上に生きると云ふ事は人生の最大要件だ(嘆息し後戸に近寄

り)　アーサー君　再た會ふ事にしやう、一寸失禮する好いだらう?

ゴーリン子爵　さうか、ぢや再た會ふ、何時でも好い用があつたら呼んで呉れ給へ

別にする事がないやうだつたらバチエラー、夜會を窺て見やうと思つて居る　明朝

は又廻つて来て見やう、今夜でも急な用事があつたら手紙をカルゾン町に寄越して呉れ給へ彼處に居るから、

ロバート、チルタン卿 何うも有難う、(彼が戸に達したる時チルタン令夫人其私室より入り来る)

チルタン令夫人 貴郎未だ御出掛けにならないのですか

ロバート、チルタン卿 否や少し手紙を書かなくてはならんから、

チルタン令夫人(彼の側に進みより) 貴郎、お身體使いが餘り過ぎは致しませんの少時も御自分の事お氣をつけにならない様ですのね而して何だか大變御疲れになつて居らしやる様だわ

ロバート、チルタン卿 否や何でもないんだ、別に心配する程の事はない(彼女に接吻して部屋を出る)

チルタン令夫人(ゴーリン子爵に向ひ) まあお掛けなさいませ私貴郎が入らして下

すて大變嬉れしく思ひますの私貴郎にお話したい事が御座いますの………否、ボンネットや婦人自由協會の事ぢやないのですよ、貴公はボンネットの事には大變興味をお持ちになつて居らしやる御様子ですが婦人自由協會の事には餘り面白味を持つて居らしやいませんやうね、

ゴーリン子爵 貴女はケベリー夫人の事を御話するお心算なんやしやう

チルタン令夫人 エ、そうなんですの、貴郎の御仰る通り昨晚貴郎とお別してからケベリー様の仰つた事が皆眞實の事だと氣付きました ですから私直ぐ破約の手紙を書かせましたの

ゴーリン子爵 夫で私の處へも誤解のないやうに寄したんですね

チルタン令夫人 若し斯様な約束したら未だ一度も汚れない履歴が臺なしになつて終まいますわ宅などが人から非難など受けて好いもんですか外の人とは全然違ふんですから外の人とする様な不正な事は出來ない筈ですわ(ゴーリン子爵が黙せる

を見て) 御同感ぢや御座いませんの貴郎はロバートの親友ぢや御座いせんか 私共二人の掛代のない親友ぢやありませんか、私以外貴郎より好くロバートを知つて居らつしやる御方はないのでございます、宅は私に何事でも皆な打ち明けて呉れますんですよ、貴公にも左様なんで御座いませう!

ゴーリン子爵 さうですともロバート君は何事も私に隠し立てなどする様な事はな

いです、少くも私はさう思つて居ます、
チルタン令夫人 ですから私が宅を斯んなに好く云ふのも無理はないで御座いませう、私眞實に左様思つて居りますの、だけど私にほんとに打開けた處を云つて下さ

いませ
ゴーリン子爵(まともに彼女を見て) 全く打開けた處?

チルタン令夫人 エ、左様なんですの 貴郎は私にお隠しする事はないでせう、
ゴーリン子爵 否や別にお隠する譯はないのですが然し奥様貴女の前だが世の中と

云ふものには……

チルタン令夫人 其世の中と云ふものは、ゴーリン子爵様貴郎は餘り御存知がない
ゴーリン子爵 否や經驗はありませんが觀察した處のお話をするのです、世の中の

成功、眞の成功と云ふものには大體不正か伴ふものなんです、又野心にしても野心には何時も不正な分子が混るものなんです 人が或る目的を立て、其に熱中した場

合若し其前途に山あればそれを乗越す谷があれば――
チルタン令夫人 さうですとも
ゴーリン子爵 又それを踏越して行く、勿論これは人生と云ふもの、一般をお話して居るんです、

チルタン令夫人(嚴かに) 眞實に然うあり度いものですわ、まア、子爵様、貴郎は

何故さう私を眞正面に御覧になるのです?
ゴーリン子爵 奥様、私は度々さう思ふんですが貴女は人生に對する觀方が餘り嚴

格過ぎやしませんか、時々貴女に寛容な態度がないやうに思うんです。それや人間と云ふものには弱い處や又夫よりはもつと悪い處が誰にもあるもんですよ。假りに誰でも高位の私の父とかメルトン卿とか或はロバート君見た様なお方が昔誰れかに愚な手紙をやつたとして御覽……

チルタン令夫人 愚な手紙つて何んな手紙ですか

ゴーリン子爵 否や人の地位を危ぶなくする様な手紙を云うたんです。然し是は眞の想像なんですからね、其心算で居て下さい、

チルタン令夫人 宅に限つて間違つた事は致さない筈です、従つて左様愚な眞似は遊ばす氣遣は御座りません、

ゴーリン子爵(少し間を置いて) 誰だつて間違ほどこはいものがあるもんですか。だつて馬鹿な眞似をしないものがあるもんですか

チルタン令夫人 貴郎は厭世家で居らつしやるの？ 外のお仲間は何う云ふお方達だ

か存じませんが然云ふ事では皆様悲觀なざる方計りでしやうね、

ゴーリン子爵 チルタン令夫人、私は決して厭世家でも何でも無い、大體厭世家つて何云ふものかそれさへ知りません、然し人生は寛容と云ふ事なしに解釋も出來なければ暮す事も出來ない……と云ふ事は知つて居ます、人生は愛です、冷い獨逸人の哲學ではない、來世の解釋は兎も角現世の解釋に於ては是が最も眞實な解釋なんです、で奥様若し貴女に何か御心配があるなら私を絶対に御信用下さい、さうすれば私は全力を盡してお助け致します、若し私に御用がございましたら何時なりとお出で下さい私は喜んで御用を勤めます、直ぐにでもお出で下さい、

チルタン令夫人(驚きながら彼を見て) ゴーリン子爵様 貴郎はまア大變お眞面目に御成遊ばした事 私今まで貴郎が斯なにお眞面目にお話なさつたのお聞き申した事は御座りませんでした、

ゴーリン子爵(笑ひながら) 如何にも恐縮です。ね もう斯なん眞面目腐つて御話

しやうとしても出来やしせせむ

チルタン令夫人 けれど眞面目の方が好うございますわ

(マベルチルタン嬢目覚むる計りの色の上衣を着けて入り来る)

マベル、チルタン嬢 姉様ゴーリン子爵様に左様お甚い事を仰るのはお止し遊ば

せ 彼の御方には眞面目なんて云ふ事お出来にならないのです ゴーリン子爵様御

機嫌好う、何卒お寛ぎ遊ばせまし、

ゴーリン子爵 マベル、チルタン嬢様 私は左様したいんですがね 今朝は少し何

うかして居るんでせう常の様に行かないんです

マベル、チルタン嬢 私が先程部屋に這入つた時の貴郎の風てば御座いませんでし

たよ、餘程育成がお悪いやうで御座んすわね

ゴーリン子爵 夫は私は育成が悪う御座います

マベル、チルタン嬢 夫では私が御育て申せば好う御座いましたね、

ゴーリン子爵 御氣の毒ですが貴女では駄目でしたらうよ、

マベル、チルタン嬢 今からでは遅う御座いますわね、

ゴーリン子嬢(笑ひながら) 何うですかね

マベル、チルタン嬢 明朝御乗馬にお出でお遊ばしですか

ゴーリン子爵 エ、行きましますとも十時頃出掛ませう

マベル、チルタン嬢 十時ですて、お忘になつては嫌で御座いますよ

ゴーリン子爵 大丈夫です そこでチルタン令夫人、今日のモーニングポストには

お邸の訪問者の名前が乗つて居ませんでした伯爵會ラムス委員會や其他の御會

合で澤山な御人でしたらう 一寸名簿を見せて戴くわけには参りませんか 少し見

たい事があるんです

チルタン令夫人 トラフォールド様に左様お話し下さいませ、彼處に御座いますか

ら

ゴーリン子爵 夫は何も有難う御座います

マベル、チルタン嬢 トミトラフォールド様は倫敦一の働者ですわね、

ゴーリン子爵(マベル、チルタン嬢に向ひ) 夫では一番不用な人間は誰でしやう

マベル、チルタン嬢(得意顔に) まは私ですわ、

ゴーリン子爵 随分御察しが好い(杖と帽子を取って)ではチルタル令夫人失禮しま

す御機嫌様 今日私が貴女に御話した事よく憶えて居て下さい

チルタン令夫人 エ、憶えて居ますとも、けれど理由そんな事仰るんだか判りま

せんわ、

ゴーリン子爵 夫は私にも判らないんです マベル嬢様 御機嫌好う、

マベル、チルタン嬢(少し失望した體で) まあ、お歸り?未だ宜しいでしやう、も

つと御緩くり遊ばせ私今朝四ツいや四ツ半程面白い事があつたんですの それをお

話しますから聞いてお出で遊ばせ

ゴーリン子爵 四つ半で随分慾張つたお話ですね それではもう御裳別けして戴く

譯に行きますまいね、

マベル、チルタン嬢 お止し遊ばせ貴郎に宜しくないものばかりですわ

ゴーリン子爵 何んと云ふ親切なお言だらう 貴女から左様云はれるのは始めてで

す随分甘い事を仰いましたね 先づお約束は明日の十時ですよ、

マベル、チルタン嬢 エ、確かに承知致しましたわ、

ゴーリン子爵 大丈夫でしやうね、けれどトラフォールド君を連れて來ては困ります

よ、

マベル、チルタン嬢(少し額を擡げて) 無論ですは私はトラフォールドさんなど連

れて行きは致しませむ、トミー、トラフォールド様大變御機嫌が悪いですよ、

ゴーリン子爵 夫は幸福だ(會釋をして出で行く)

マベル、チルタン嬢 姉様、貴女トミー、トラフォールド様にお話なすつて下さい

チタルル令夫人　トラフォールド様が何うか爲さつたの　兄様は今迄の内、彼の御方が一番好い秘書官だと云つてお居で、すよ。

マベル、チルタン嬢　トミー様は又縁談を申し込むでお出でになつたんですよ、彼の方はもう縁談の事ばかり仰るのよ昨夜音楽室で三分唱を一生懸命に聞いて居たんですよ、さうしたら不意打ちにお話しかけになるんですもの、ねえ知れた事ですわ彼んな處で直ぐ御返事が出来るものか出来ないものか、御返事でもしやうものなら音楽家なんて大變物を氣にする方ですから直ぐに音楽も何も止してお終ひになるわ、音楽家は一番好い處をやつてる其瞬間一層静かにして貰ひたいものなんですわね、夫から今朝は今朝であるのスキレスの銅像の前で眞晝中御話になるんですよ、あんな藝術家の前でする事は空恐ろしいものです、巡查さんにも見付つたら大變ですわ、御晝飯の時も又話しかけそうなの、でしたから此方から私は兩本主義ですよと云つて上げたの、そして口の効けない様にしたんです、私兩本主義なんて何な

ものだが知らないのです外のお方も御存知でないでしやう、夫でもトミー様は十分程考へて居らしたやうでしたが急に驚いた様なお顔付をなさいました、眞實に彼の方にも困つて終ふんですよ、人に聞えるやうな聲でお話になるなら外の人に對しても好いんですし私もそれなら一寸も構ひませんわ、けれど彼の方はいつも密々お話になるから嫌ですわ、彼の方が粹なお話でもなさらうと遊ばす時には全でお醫者様のやう、私彼の方少しも嫌ではないんですがお話の態度が當世には餘り不向なんですもの、姉様、貴女彼の方にお話してあの……縁談のお話なら一週に一度来て戴けば澤山、それからお話をなさるなら此方の注意を引くやうな御態度でいつもなさつて下さいつて云つて下さいまし、好いでしやう？

チルタン令夫人　マベル様、そんな事を云ふものではない事よ、兄様は大變彼の方がお氣に入りで何んですか非常に望をかけて居らつしやる、マベル、チルタン嬢　オ、嫌だ、私何うしても有望な御方となんかは結婚しません

わ、

チルタン令夫人　マベルさん何を仰るんです、

マベル、チルタン嬢　ねエ姉様貴女は前途有望なお方と御結婚遊ばしたんでしやう

夫は兄様は秀才、貴女は氣高い獻身的な御婦人——貴女なればこそ俊才の御相手も

御出来遊ばすと云ふもの私なんか全人格はなし俊才のお方なんかのお相手など到底

望まれない仕事なんですわ、まアロバート様は私の兄様だから別物ですけれど秀

才などをきたたら、私には到底駄目なんです、秀才のお方は大變多辯な方でしやう嫌

な事ですわね　秀才の御方と云ふものは御自分の事計りも考で私共の事など御相

談申しても少しも御相手して下さらない　私バシルドン令夫人に御話しなくてはな

らない事が御座いますからあの御姉様　私共が活人書をやつて居るのを御存知でし

やう「何とかの勝利」つて云ふんですの私其勝利が私のものになれば好いと思つて

よ私今ぢや其事計り思つて居るんですの（チルタン令夫人に接吻し外に出づ、後再

び走り歸り、姉様、御客様ですよ何誰か御存知あの嫌なケベリー夫人がまア派出な
御召物でお出でになつたのよ、貴女お招き遊ばしたんですの、サー一寸出かけて参
ります

チルタン令夫人（立ち上り）　ケベリー夫人ですて？ケベリー夫人が御訪問に……そ

んな事はありませんわ、お人違ひでしやう

チルタン令夫人　マベル様貴女はお待ちにならなくとも好うございますよ　彼處で

バシルドン御夫人がお待ちでしやう

マベル、チルタン嬢　オ、私マークビー令夫人に御挨拶して参りませしやう　彼の方

は大變ささくな御方ですわね　私彼の御方から比喩はれるの大好き

（メーソン登場）

メーソン　マークビー令夫人と、ケベリー夫人がお出で、御座ります

（マークビー令夫人及びケベリー夫人登場）

チルタン令夫人(二人に近づき) マークビー令夫人好うこそお越し下さいました、
(令夫人に握手しケベリー夫人には遠方から一寸腰をかじめ會釋す) ケベリー夫人
お掛け遊ばしませ

ケベリー夫人 何も恐れ入りませ 彼處にお居での方はチルタン嬢様では御座いま
せんか 私お近付になりたいと思ひまして……

チルタン令夫人 マベル様!! ケベリー夫人が貴女にお會したいんです(マベル、チ
ルタン嬢一寸點頭く)

ケベリー夫人(腰をかけて) チルタン嬢様昨晚のお召物は大變御奇麗でしたのね、
薩張して好くお似合でしたよ

マベル、チルタン嬢 眞實ですか、夫ぢや仕立屋に左様申して置きませしやう 屹度
驚きませすわ マークビー御令夫人 御機嫌よう

マークビー令夫人 もうお出掛け遊ばすんですか

マベル、チルタン嬢 ですけど少し用事があるもんですから……私今度の活人畫で
天手古舞しなくつちやならないんです

マークビー令夫人 天手古舞ですて マア、お止し遊ばせ お身體のため好くない
でしやう(チルタン令夫人の隣に長椅子に腰をかく) だつて慈善會なんでももの、

私の一番興味を持つて居る貧民救濟事業なんでももの私が幹事でトミートラフォー
ルドさんがお會計なんです

ケベリー夫人 夫ではゴーリン子爵様は何なんです

マベル、チルタン嬢 ゴーリン子爵様ですかあのお方は會長様なんです
ケベリー夫人 私が以前知つて居た通りのゴーリン子爵様なら會長には至極適當
で御座いましやうよ

マークビー令夫人(考へながら) マベル様貴女は新らし過ぎる程新らしいお方です
わね 新らしがるのも随分危ない藝當ですわね 少し油断して居ると古ぼけて終ふ

んですから……私随分左様方を知つて居ますよ

マベル、チルタン嬢 何と云ふ恐ろしい御先見なのでしやう

マークビー令夫人 あら、左様に神經質におなり遊ばさなくとも宜しいんですわ、

貴女はいつも此上なく御奇麗にして居らつしやる、是れは現在の最も好い流行です
英國が興す事の出来る唯一の流行なんです、

マベル、チルタン嬢(叮嚀に) 夫は恐れ入ります、英國と私との爲めお禮申します

(室外に去る)

マークビー令夫人(チルタン令夫人に向ひ) ガートルード様、私共は若しやケベリ

夫人の金剛石首飾がお宅に落ちて居はしませんでしたかお尋ねに上つたんですの
チルタン令夫人 宅にですか?

ケベリ夫人 エ、然うです、私クラリツヂの宿へ歸つて始めて失したと氣が付いたんですのそして多分お宅で落したに違ひないと思つて参りました譯ですの

チルタン令夫人 私一寸も左様話は聞きませんでしたよ けれど部屋をかたづけた
者に聞いて見ましやう(ベルを鳴らす)

ケベリ夫人 奥様 左様に遊ばさなくとも宜しいんです 私此處へ上る前オペラ
で落したのかも知れません

マークビー令夫人 あ、オペラかも知れませんよ 今ではオペラも押し合ひ擁し合
ひ日の暮になつて歸る時分何か身に付いて居るのが不思議な程ですからね、私自身
さう思ふんです私其様な處から自分の居間に歸つて來ると私の身には馬車の外か
ら人に見られて不體裁なくない位な物以外總無くなつて終つたやうに思へます、實
を云へば社交會も人口過剰で誰か補助移民制とでも云ふものを作つてドシク移民
をしなければ到底駄目になつて來ますわ

ケベリ夫人 マークビー令夫人 私も至極同感で御座います 私倫敦へ参つてか
らもう六年程になります其時分から見ると社交會なんか随分混合して参りました

わね 而して變なお方が何處にでも居らしやるやうになりましたのね

マークビー令夫人 それは御尤もですわ、けれど左様お方と御近付になる必要はありませぬわね、私なんか宅に行しやるお方の半分も存じて居ませぬの皆の方が云はれる事を一々聞いて居る事なんか出来ませぬわ

(メーソン登場)

チルタン令夫人 ケベリィ夫人貴女が御失になつた首飾は何なのでございますか？

ケベリィ夫人 可成り大きな紅玉が着いた金剛石蛇形の首飾でございました

マークビー令夫人 私先程頭に縁玉の着いたのだとお聞き申した様でしたが

ケベリィ令夫人(笑ひながら) 否え紅玉でございます

マークビー令夫人(轉頭ながら) じゃ好くお似合でしたらう

チルタン令夫人 メーソンや今朝何處に紅玉とダイヤ入の首飾が見當らなかつたかね、

メーソン 左様でございます、お言で御座りまするが見當りませんで御座いました、

ケベリィ夫人 チルタン御令夫人 大したものでもないんですから構はないでお置

き下さいませ 却而御面倒を掛けて相濟みません、

チルタン令夫人(冷やかに) 否え、些も面倒な事なんか御座りませんのです、

メーソンや、夫じやもう好いから御茶を持つて御出で、

マークビー令夫人 眞實に失ひ物をする程嫌な事は御座りませぬのね、私がパスに遊湯治して居た時分宅から貰ひました貝に浮彫の立派な腕輪をバンブルームで失つて終ひましてね、夫からと云ふもの宅も私には何物も買つて呉れませんでした彼の人其後滅切と落ぶれて終ひましてね私も泣き度くなる位ですの眞實に議會程婦人方の爲めにお互の夫を破滅させるものはござりませぬわ、婦人の高等教育など申すものが出来ましてから議會と申すものも幸福な今迄あつたやうな結婚生活には

一大打撃と云はなければなりません

チルタン令夫人

マークビー令夫人様貴女左様な事此處で仰つて異端におなり遊ばしますよ、宅は勿論、私とても女子高等教育の熱心な主唱者で御座いますものね

ケベリー夫人

それよりも殿方の高等教育の方が見物だと思ひますわ、殿方こそ反つて御必要なんですわ、

マークビー令夫人

それも御尤もですわ、けれど然う云ふ事は實行出来るか何うで

すか私殿方はもう餘り進歩の餘地があまりにならないと思ふんです、殿方も行く

處迄行つてお終ひですがそれも知れたもんで御座います、私共婦人の事に就いては

ガートルード様貴女はお若いんですから貴女が一つ婦人の偉らしい處をお見せ遊ばし

て下さいませ私共の時分は學校教育と云ひましても唯だ婦人に必要な事はばかり教は

たので御座いますからそれは舊式で今から見ると随分可笑しい事も御座いますよ

私だの私の姉など學校では常も是は知らなくても好い彼れは不必要だなど云つて教

はらなかつた事が随分御座りました、けれど當節の御婦人方は何でも御存知なんですわね、

ケベリー夫人

エ、然うで御座います、旦那様の事の外何でも御存知です、どう

も是許りは流石當今の御婦人方でも御理解遊ばさない様で御座いますのね

マークビー令夫人

けれど私御理解遊ばさらないで、幸だと思ふんでございますよ

若し御理解遊ばしたらそれこそ随分とお美しい御家庭に大きな悲劇を起す事になる

で御座りませう、ガートルード様、貴女の事を云ふのでは決してないんですよ、そ

んな必要は少しもないのです、貴女方御夫婦はそれは御相性なお方々ですものね、私

も實は然うなり度いと思つて居るんで御座います、然し宅が今迄行つた事もない討

論會に何うした機會かいつも缺かさず行くやうになりました、其話振が全然變つて終

ひましてね、家で話をする時でも議會か何かで演説でもして居る積り、農業労働者の

状態が何したとかウエルシユ教會が何うしたとかそれでも私共には譯の分ら

ない事計り饒舌つて居るんですよ、ですからそれが始ると家中の使用人を皆外に遣
らなければならぬんですよ、だつて二十三年も一家に勤めて居る料理人が食器棚
の傍で困つた顔付をして居るのや下僕共が曲馬場の見物みたやうに不安な面持で居
るのを傍で見れば居られませんからね、宅を早々に貴族院の方へでも出して下さ
ないと私迄堪りませんわ、さうして下さると宅も政治の方か嫌になつて好いかも知
れませんが、貴族院と云へば紳士方のお集合ですからね、けれど宅も未だ修養中なん
ですものね、今朝もさうなんですよ朝飯が半分も濟まない中衣袋に手を入れたまゝ
絨氈の上に立ち上り大聲出して國家に訴へる御演説なんですの、私お茶を二杯ばか
し飲むでから直ぐ食堂を逃げて來ちやつたんですよ、それでも大きな聲が家中に響
ひて居ました、ガートルード様お宅のロバート様は左様事御座いませんでしやう
チルタン令夫人 私政治が好きなんですから其お話が出ますと喜んで聞いて居りま
すんですよ

マークビー令夫人 左様で御座いますか貴女のお宅は宅などの様になく政治録など
御讀みにならないで結構ですわ、あんな物が何か人様の御役に立つんでしやうか
ケベリー夫人(元氣なく) 私青本の政治録なんか讀むた事御座いませんわ まあ、
私共には黄表紙の書物の方が好う御座いますわね、
マークビー令夫人(全く無意識に) 黄色の方が餘程薩張して好う御座いますわね、
私娘時代には随分黄色勝つた物許り着て居たんですよの宅でさへ差支へなければ今で
も黄色のお召を着るんですよ又あの人はそれは色合なんかによく気が注ぐんですよ
よ けれど男子が着物の事云ふなんか随分馬鹿氣て居ますわね、
ケベリー夫人 否え、仲々さうじや御座いませんよ却て殿方の方がお召物のお見立
なんかお上手なもんですわ
マークビー令夫人 眞實ですか知ら けれど殿方の召してお居でになるお帽子を見
れば左様でもないやうぢやありませんか(料理長一人の僕と共にチルタン令夫人の

傍なる小さき机上に茶を運ぶ)

チルタン令夫人 ケベリー夫人お茶を召し上げ、

ケベリー夫人 恐れ入ります (料理長益に茶を乗せケベリー夫人に差出す)

チルタン令夫人 マークビー御令夫人御茶は如何、

マークビー令夫人 恐れ入ります、私、戴きませんです (僕室外に去る) 實は一寸

ブランキヤスター令夫人が御心配事があるさうで其爲めお訪ねする様お約束したんです、その御方の大變奇麗なお嬢様が今度シユロブンヤの副牧師のお方と結婚のお約束をなさいましたのださうです、何んと云ふお考なしな事でしたら私眞實に御氣の毒ですわ 私近頃の御方が副牧師なんかは何んなお考へを持つて居らつしやるか知りませんけれど私共の娘時代には副牧師と云へば何處へでも兎かなんかの様に飛び廻つて見に行つたもんですけれど別に深入りして氣を止めた事もありませんでした それが當節では地方の社交會には随分副牧師の艶物語も漸次あるさうです

てね 其様な事宗門衆の爲さる事じや御座いませぬわね、而して彼女の御方の御長男はお父上と何かのいさかいで御互に俱樂部なんかで御出會になつても御父上の方からタイムスの財政欄かなんか見て居らつしやる様にして姿をお隠になるんださうです、けれど當節では左様なお話は珍らしくもないんでしやう、ですからセント・ゼームス街の俱樂部では何處の御父上も身隠れの御用心にあのタイムスの特別號か何か御取りになつて居るんですつて！ だつて世間では何でも御父上と御一處になさるのがお嫌な御子供衆があり忤となら嫌だと仰る御父上も多そうですからね私随分世智辛い世の中になつたものだと思ひましてよ

ケベリー夫人 左様ですとも當節では親方の方から子供衆に教りになる事が多いんです、

マークビー令夫人 さうでしやうか？ 而うして何を教るんですの、

ケベリー夫人 生活術を教るのですわ……是が近代に産れた唯一の傑作なんです

わ

マークビー令夫人(頭を振り) そんな事仰つたて其事ならブランキヤスター郷の方が御子様よりは好く御存知ですわ それはその奥様より好く御存知ですわ(チルタン令夫人に振り向き) チルタン令夫人様ブランキヤスター令夫人を御存じでしやう、

チルタン令夫人 エ、よくは知りませんが昨年丁度、私共とラングトンに居りました時分あの御方も彼處に居らつしやいましたから存知て居ります

マークビー令夫人 あの御方御丈夫そうな婦人の事で始終福々しく居らつしやるのね それで今お話しした副牧師の事の外種々御心配があまりなんですよ、お妹御様のゼキル様も極い御苦勞遊ばして失戀のため修道院とか劇場とか何方でしたか忘れましたがお這入りになつたんだそうです、イエさうぢやない飾物の針仕事をなさつてお居でになると思ふんです、何でも浮世の快樂を總てお捨になつたんださうで

すの(立上り) それは然うとガートルード様私ケペリー御夫人を置き放して濟みませんけれど一寸行つて参りますよ十五分程して又お迎に上ります、さもなくばケペリー夫人貴女私がブランカスター令夫人のお宅に参つて居る間馬車の中でお待ちが願へましやう? 私御慰問に伺ふんですから長居は致しません心算

ケペリー夫人(立上り) 何誰か一所に居て下されば馬車の中でも御待ち致しますわ

マークビー令夫人 あの副牧師のお方は何時も家の邊を逍遙いて居らつしやるさうですよ

ケペリー夫人 私 御婦人のお友達なら居て下さらなくとも好いわ

チルタン令夫人(立ちながら) あのケペリー御夫人、何なら少しお待ちになつてお居で遊ばしませお話し度い事も御座いますから

ケペリー夫人 チルタン御令夫人様 何時もながら御親切恐れ入りますさう遊ばし

て下されば是程嬉しい事は御座いませぬ

マークビー令夫人 貴女方學校時代の昔し話がおありになるじやありませんか
トルウド様御機嫌好う、今晚ボナー令夫人の御邸でお目にかゝれまじやうかしらあ
のお方も滅法な新進天才のお方とお近附になつたんですよ何もして居らつしやらな
いんですて それや好う御座いますわね

チルトン令夫人 今夜宅と一所に食事を家で戴く事になつて居りますから今夜だけ
失禮致します 勿論宅は別に面白い問題もないのですけれど議會へ参らなければな
らないで御座いませう、

マークビー令夫人 御兩人で御夕飯ですつてまア何んてお堅い事なんで御座いませ
う、オヤさうでしたのねお宅の旦那様は例外なんで御座いましたね、宅などは夫は
開け過ぎて居て困る程なんですよ、開け過ぎた夫を持つ程早く年を取るものは御座
いませぬのね

(マークビー令夫人退場)

ケベリー夫人 マークビー御令夫人は眞實に面白いお方ですわね、又好くお饒舌で
す事ね、活動の辯士にでもお成り遊ばすと好い、何うして旦那様の上手を越してお
居て、すわ、旦那様はいつも物臭な怒つぽい鑄型のやうな英國紳士です、

チルトン令夫人(返事もせず立ち居ると話が少しの間杜絶れて 二人の眼と眼と會ふ
チルトン令夫人はキリツとした青ざめた顔色 ケベリー夫人は寧ろ面白げな面持)
ケベリー御夫人 いつそ腹を割つてお話した方が好いかも知れませぬ、あの私貴女
が何な方だかよく存知て居りましたなら昨晚宅に貴女をお招きは致したはなかつた
ので御座います、

ケベリー夫人(無遠慮な笑方をして) まア眞實ですか

チルトン令夫人 お招きは出来兼ねたんですの

ケベリー夫人 相變らずお頑固いんですのね

チルタン令夫人

私何時まで経っても同じ氣質なんですの

ケベリー夫人(眉毛を聳立て)

夫では生活も貴女に何んの教へる處がなかつたと仰しやるんですね

チルタン令夫人

私はそれでも、前に不正直で不名譽な行をなさつた方は其を二度と再び繰返し人の瓜弾にされるもんだと云ふ事を教りまして御座いますの

ケベリー夫人

貴女は夫を訴にでも當て箴めやうとお思ひなんです

チルタン令夫人

さうですとも例外はありませんのですものね

ケベリー夫人

それこそお氣の毒な事ですわね

チルタル令夫人

貴女が倫敦に居らつしやる間是以後の御交際は御断りする事に致します、御承知で御座いますしやうね、

ケベリー夫人(椅子に寄りかゝり)

ガードルード様 私貴女の御道徳説を聞きに参つたのでは御座いませむ

道徳など云ふ物は人が其の嫌な人に對して取る態度に過

ぎないので 貴女は私がお嫌なんです私夫は好く存じて居ますの私は常も貴女に

反對して來たんでしたからねだけど私は尙貴女のお爲を思つて参つたんですよ

チルタン令夫人(輕蔑的に)

昨晚貴女が宅に 仰つた様な事なんで御座いますしやう

私は其事から宅を救つてやつと今安神したばかりなんです

ケベリー夫人(突立つて)

あんな失禮な手紙を旦那様に書かせたのは全く貴女の仕

業なんで御座いますしやう 約束を反古にさせたのも貴女なんじや御座いませんか

チルタン令夫人

イエ私に違はありませんよ、

ケベリー夫人 ですから貴女は今度旦那にお約束を守る様にして下さらねば不可せぬ

私は明日の朝まで猶豫してお上げします其からはお待ちする譯には参りませむ 若し貴女の旦那様が其時迄に私の願つた大事な事をして下さらなければ………

チルタン令夫人

あんな山師的な投資事業を助けろと仰るんですか

ケベリー夫人 何とでもお云ひ遊ばせ 貴女の旦那様は私の手の中にあるんですか
らね私の云ふ通りにおさせになつた方がお慥巧と云ふものですよ

チルタン令夫人(立ち上り彼女の方に進み寄り) 貴女は失禮な事を仰いますのね貴
女と宅と何んな關係が御座いますんです 貴女の様な左様御婦人などに

ケベリー夫人(苦笑して) 此の世の中じやどうせ牛は牛連れ馬は馬連れですの二人
話が會ふと申すのも貴女の旦那様御自身山師で不正直ですからなんです 貴女と旦那

様との間には深い溝があらになる 私と旦那様とはお互にお友達より近しいの
で御座います此二人は御互に敵同志なんですけれど一所に繋つて居るんで御座いま

す、罪と云ふ鎖で繋つて居るんで御座いますの
チルタン令夫人 何うして貴女と宅と一所に出来ず 何故そんなに宅や私を脅迫

なさるんですの、サツサと出ておるで遊ばせ 貴女の居らつしやる處ではないので
御座います

(ロバート、チルタン 卿後手より登場、令夫人の最後の言葉を聞き又夫が誰に向つ
て云はれしかを知り 顔色蒼白となる)

ケベリー夫人 此御邸をですか不正なお金で造つた此お邸をですか詐欺で出来たお
邸(振り返つてロバート、チルタン卿を見) 何うして此御財産が出来たのか旦那様

にお聞き遊ばして御覽なさいませ、内閣の秘密を株屋に賣つた事を白状おさせ遊ば
せ貴女の位地が何うして出来たか聞かしてお貰ひ遊ばせ、

チルタン令夫人 夫は嘘です、嘘ですわね貴郎
ケベリー夫人(指を伸して彼を指差し) 旦那様を御覽遊ばせ 嘘言だと仰れます
か 仰る勇氣が御座いますか

ロバート、チルタン卿 お出なさい直ぐ出てお行きなさい 夫丈云つたら澤山でし
やう

ケベリー夫人 夫丈で澤山ですて私はまだ云ひ足りない事が御座います 貴君方御

兩人に未だどつさり申し上げた事があるんで御座います。まア明日のお晝迄待つてお上げします。其迄に私が貴郎に申上げた事を爲て下さらなければ貴郎の舊惡を全部世間に打ち明けて終ひますよ。

(ロバート、チルタン卿頻にベルを鳴らす。メーソン登場)

ロバート、チルタン卿 ケペリー夫人を引きづり出せ

(ケペリー夫人凝としながらチルタン令夫人に馬鹿丁寧な會釋をする、チルタン令夫人は何の答禮もせず、ケペリー夫人戸の側に立つロバート、チルタン卿の前を暫時立ち寄り屹と彼を睨む。後僕に従はれ戶外に出で僕は堅く戸を閉し去る、室内にはチルタン夫妻のみ淋しく残りしが令夫人は怖ろしき夢を見たる者の如く立ち暫らくありて振り向きロバート、チルタン卿を見る。恰も始めて彼を見るが如く異様な眼を以つて彼を睨む)

チルタン令夫人 貴郎は内閣の秘密を金のためにお賣り遊ばしたんですね、貴郎は

貴郎の生涯を詐欺でお始めになつたんですね、貴郎は不名譽の上に貴郎の御經歷を御建てになつたんですね、オー夫は嘘だと仰つて下さいませ、嘘でも好う御座いますからさう仰つて下さいませ夫が眞實でない事をお話し下さいませ

ロバート、チルタン卿 それやあの女の云つた通違ひはない。然しガートルードやよく聞いて呉れ。お前は私が何程誘惑を受けたのか知らないんだ。まア全體の話をするから聞いて居て呉れ(彼女に近寄る)

チルタン令夫人 傍に行らつしやつては困ります私に觸つては嫌で御座います私は貴郎から永遠に汚辱された様な氣が致します。何んと云ふ猫を此間中被つて居らしたんでしやう。圖々しい猫被り！貴郎は金のために御自分をお賣になつたんです。泥棒の方が未だ正直で好う御座いますわ貴郎は御自分を一番好い買手に御賣りになつたので御座います貴郎は市場で賣られ遊ばしたんです。貴郎は廣い世間を瞞着なされたのです。ですけれど此私を御瞞着遊ばす事は出来ませんのです。

ロバート、チルタン卿(彼女の方へ走り寄り) ガートルードやガートルードや許して呉れ許して呉れ!!!

チルタン令夫人(手を伸して彼を押しやり) 否、夫は不可ません何にも云はないで

下さいませ!!! 貴郎のお聲を聞くに嫌な記憶許り呼び起します私に貴郎を愛させた

物の記憶——私に貴郎を愛させた言葉の記憶——其記憶は今となつては怖ろしい怖

ろしい記憶となつたので御座います私は貴郎を何んなにか崇拜して居ましたでしや

う 貴郎は普通の方々よりは掛け離れて清い氣高い正直な汚れないお方でした、

貴郎が居らしたので世間も一層美々しく見えましした善も一層眞實に見えましした、

けれど今となつては貴郎の様なお方を私の理想にしたと思ふと……… 貴郎の様な

お方を私の理想にしたと思ふと………

ロバート、チルタン卿 其處がお前の誤解なんだ其處がお前の……否や總ての婦人

の間違つて居る處なんだ、何故婦人と云ふものは我々男子と云ふものを愛する事が

出来ないのか……夫れは罪もある缺點もある然し其罪も缺點も凡てを愛する事が出
来ないのか 何うして我々を異常な土臺の上に立てやうとするのか、我々とても土
塊から出来た人間である 男子でも婦人でもそれは浮世の塵から離れる事は出来な
い、我々は婦人を愛するが其時は婦人全部を愛するのだ、其弱點も其愚劣な事も其
不完全な事も……其外總ての事愛するが夫は皆婦人と云ふもの全部を愛するからだ
愛と云ふものを要するものつまりは人間が不完全だからだ 救助の必要なも我々
が自分の手で、さもなければ他人の手で自分に傷を受けたからなんだ——其以外何で
愛が必要であらう、罪に對する罪以外罪と云ふものは凡て赦すべきものだそれが愛
なんだ、無愛の生活以外總ての生活は眞正の愛の赦すべきものなんだ、男子の愛は
凡て斯の如きものなんだ 夫は婦人のそれよりは餘程廣い大な普遍的なものなんだ
婦人は男子を理想化しやうとして居る、又其理想を作り上げて居ると思つて居る、
然し彼等が作り上げて居るものは單に空想的な偶像に過ぎない、お前は私の空想的

な偶像を造つてそれを崇拜して居た、私は其爲め自分の弱點も自分の舊疵もお前に話す丈けの勇氣が出なかつた、私はお前の愛を失ふ事を恐れて居たが今は既に其愛を失つて終つた、而して其故にお前は私の生涯を破滅させて終つた、昨夜お前は私の生涯を破滅させて終つたのだ、彼の女の願ひと云ふのは彼女が私に與へて呉れやうとするものに較べれば何でもない事なんだ彼女は私に安全、平和、鞏固を與へやうとして居るんだ、地に埋れたと思つた私の舊惡が今眼前に起き上つて來た、惡むべき怖るべき舊惡が其手で私の咽喉を壓へて居るのだ、私は其を永遠に、永遠に殺して終ふ事が出來、墓に葬去る事が出來た、其記録を破り其悪い證據を燒捨てる事が出來た、然共お前は其れを妨害して終つた誰でもないお前がお前が妨害して終つたんだ、胸に聞いて見たら判るだらう、もう斯うなつたら世間への不名譽、破滅、怖ろしい恥辱、世間の物笑ひ淋しい日蔭生活而して淋しい犬死、斯うした運命は早晚免れ難いんだ、もう婦人に理想など持つて貰うまい、男子を祭壇の上にな

ど祭り込まないで貰はう、さもなければお前方婦人は總ての男子を全くの破滅に歸さして終ふんだ、——恰度私の野獸のやうに熱愛したお前が私を全く破滅のどん底に突き落したやうに、さうだお前が私を全く破滅のどん底に突き落したやうに、男子を全く破滅に歸さして終ふんだ、
(彼は室を去らんとする、チルタン令夫人彼に走り寄り、寄らんとすれど戸は閉され、至るに由なく、苦惱と困迷と悲痛とに顔色も蒼白に彼女は水に浮ぶ木の葉の如き身動きし、双手は高く空を握み風に揺らぐ花辨の如く震へり、と見ると長椅子の片端に身を投掛けそれに面を埋め其啜泣は小兒のそれの如くかすか室内に響く)

(幕)

第三幕

場面

ゴーリン子爵邸書齋、アダム室、右手に客室入口、左手に喫煙室に通ずる戸口あり、後手は應接間に續く、暖爐に火燃えて僕のフィツプス机上に新聞を揃ふ、フィツプスは無神経が特長なれど模範下僕の聞えあり仲々以て正體の知れぬ代者で永年働いて居るもの、誰一人其眞の爲人を知るものがない、兎に角僕としては惜しい位上出来な者である

(孔飾を着けたる夜會服姿のゴーリン子爵登場、絹帽に外套肩被を着、白色の手袋はめたる手にはルイ形の杖を持つ、凡ての装が流行界の粹を極め人をして現代の寵兒と云ふ否な現代の權威者てふ感を引き起さしめ、實に思想史中美裝哲學者の第一人とも云ふべきである)

ゴーリン子爵

フィツプス、此間買つて来た孔飾を持つて来て呉れないか、

フィツプス

畏まりましたござりまする（ゴーリン子爵の帽子杖及び肩被をとり新

しき孔飾を盆に乗せて持ち来る）

ゴーリン子爵

フィツプスは是れは仲々立派なもんだらう人中ぢや目立つて見えるに

違ひない當節孔飾を着けて居る人なむかありやしない倫敦中で私一人位なもんだら

う

フィツプス

御意の通りに御座りまする

ゴーリン子爵

古い孔飾を抜き取り） なア、フィツプス、世間で流行くつて云ふ

がつまりは自分が着て居るのが流行向で人の着て居るのが流行後れなんだ

フィツプス

御尤もで御座りまする

ゴーリン子爵

他人の行爲が皆凡庸に見えるところと同じ事だ。

フィツプス

御意に御座りまする、

ゴーリン子爵（新しい孔飾を着けて）

さうして虚偽が他人の眞理だと見えるやうな

もんだ

フィツプス

御意に御座りまする

ゴーリン子爵

他人は皆恐しいものだ、一番安心の出来るのは「自分」と云ふもの計

りだ

フィツプス

御意に御座りまする

ゴーリン子爵

だから自愛と云ふ事は一生のロマンスの始めなんだ、

フィツプス

御意に御座りまする

ゴーリン子爵

鏡に自分を映しながら） フィツプス、此孔飾は餘り好くないね少し

老けて見える、分別盛りの年頃に見えるだらう……え？ フィツプス、

フィツプス

御意でござりまする別に大した御容貌違ひとも覚えませんがござりま

する、

ゴーリン子爵 大した違ひもない？

フィツプス はい、

ゴーリン子爵 私には違ふやうに思へるがな、木曜の夜會にははフィツプスこれぢや困るね、

フィツプス 御前様、それでは花卉商にさう申し附けて置させうで御座ります。彼處でも先日家内に不幸が御座りましてそれで其様に手が届かなかつたと思はれます、

ゴーリン子爵 それは下級には大變な出来事だからな——上流の方では何でもない事だが……

フィツプス 御意に御座ります、其點に於きましては上流より幸福と申すもので御座ります

ゴーリン子爵 振り返つて彼を視入る彼は尙氣注かず知らぬ顔をして居る) フム、

フィツプス 手紙は來なかつたかね、

フィツプス 御意で御座ります三通程參つて居ります(手紙を盆の上に差出す)

ゴーリン子爵 (手紙を取つて) 二十分計りしたら馬車を用意するやうに云つて呉れ、

フィツプス 畏まりました(戸に近寄る)

ゴーリン子爵 (桃色の封筒を取上げ) おいフィツプス、此手紙は何時届いたのだい、

フィツプス 御前様が俱樂部へお出でになると直ぐ、男が持つて参りましたのでござります、

ゴーリン子爵 さうかそんならそれで好い(フィツプス退場) チャルタン令夫人の

桃色用紙にチャルタン令夫人の筆蹟……これは不思議だ、チャルタン卿が書きさうな筆だが……何んな事を云つて寄したんだらう(机に寄り手紙を開き読み始め)「お願が御座ります、貴郎を御信用します、お伺ひ致し度う存じます、ガートルードより」

(惱しげな面持に手紙を下に置き又取り上げて叮嚀に読み返す)「お願がござります
貴郎を御信用致します、お伺ひ致したう存じます」それでは何も彼も分明つて終つ
たんだな、可愛相に(時計を出して見て)今時分来るとは恐れ入るな もう十時ぢ
やないか……パークシャー行は止さなくてはならないね然し待つて居るのを行か
ないのも面白い事だ、バチエラー邸では来ると思つては居なからう、だから其處へ
は是非行つてやらなければ、よし〜それで……タルタン令夫人には旦那様の罪を
庇つてやるやうに説得してやれ 彼女に取つてはこれが唯一無二の義務なんだから
な否や女と云ふものは皆さうあるべきが眞實だ 結婚と云ふものを彼んな失望的片
手落なものにして終つたのもつまり女に道徳心等云ふものが生仲出て来たからだ、
十時と……もう彼此来る時分だ、さう〜フイツプスに他の人には留守を使ふやう
に云つて置かう(鈴の處に寄る)
(フイツプス登場)

フイツプス カバーシヤム伯爵のお出で！
ゴリン子爵 悪い時に親が来たもんだな、造物主が何うかして間違ッてるんだ、
(カバーシヤム伯爵登場) 父上、御機嫌好う(彼に握手せんと寄進む)
カバーシヤム伯爵 上衣を脱つて呉れ、
ゴリン子爵 取つた方が好しう御座いますか、
カバーシヤム伯爵 脱つた方が好い、何れが一番居心地の好い椅子ぢやね
ゴリン子爵 これが好いでしやう、來客があつた時私がいつも使ふんです
カバーシヤム伯爵 有難う、此室に風穴はないぢやろね無けれや好いんぢやが……
ゴリン子爵 否えありません
カバーシヤム伯爵(座りながら) それで安心したよ、風穴などあると弱るからの俺
ん所ぢやそんなものありやせんよ
ゴリン子爵 父上、好い風が來ますよ、

カバリーシヤム伯爵 エ、エ、何んぢやつて、戯談ぢやない、俺は眞面目な談をしに
来たんぢや

ゴッリン子爵 今直ぐと云ふんですか、

カバリーシヤム伯爵 さうぢや、未だ十時になつた計りぢや、何か差支があるんかね
話すには持つて来いと云ふ時分ぢやないかの、

ゴッリン子爵 實は今日はさう云ふお話を聞く日ぢやないんです、父上、失禮です
が斯うして居られないんです、

カバリーシヤム伯爵 それは又何云う譯なんぢや
ゴッリン子爵 期節の間當分眞面目な話は毎月第一の火曜四時から七時迄と決めて
あるんです

カバリーシヤム伯爵 好しい、そんな規則を作つたのならそれでよい、勝手に幾何で
も作るが好いわい

ゴッリン子爵 それにもう疾くに七時は過ぎてゐますもの、醫者が七時過ぎになつ
たら眞面目な話をしてはいけないつて云ふんです、眠つて迄浮言を言つていけない
と云ふんです、

カバリーシヤム伯爵 浮言を云ふ？ 何うしたと云ふんぢや 未だ獨身者の癖に
ゴッリン子爵 それや獨身者に決つてます、

カバリーシヤム伯爵 フム、さアそれぢやから其事に就いて話して来たんぢやよも
う好加減に結婚をせにやならんよ直ぐにでも……俺がお前位の時分三ヶ月計り殺風
景な寡夫生活をした事があつたが其時はもう疾に今のお前の母様にお百度を踏んで
居つたんだよ、結婚するのはお前の一の義務なんぢや、さう呑喰いつ迄して居るん
ぢや、今ぢや位置のある人で結婚せん人はありやせん、もう獨身主義など時代遅れ
ぢや、其弊害も大したもので今じや世間の人も皆それを自覺して居るんぢや、何う
しても早く方を付けちやつた方が好い、ロバート、チルタン卿を見い、正直でよく勉

強をする善い娘さんを貰つたのであの通り……お前も少しは彼の男の眞似をせい、
何故眞似をせんのかや

ゴーリン子爵 實はさうしやうとは思つて居るんですが、

カバリーシヤム伯爵 それが好い、さうして呉れりや俺も結構ぢや、今の所ぢや
俺がお前のためお前の母様に迷惑を掛けて居ると云ふもんぢや、お前も餘程考へ無
しで困る眞實に考へ無しぢやからの……

ゴーリン子爵 満更さうでもありませんよ

カバリーシヤム伯爵 結婚するには充分年盛だ、三十四ぢやつたの、

ゴーリン子爵 さうです、然し未だ三十二位にしか思つて居りませんよ、眞實に善
い孔飾があると三十一半位にしか見えないうです、此孔飾は駄目です

カバリーシヤム伯爵 如何程さうでも三十四に違ひないんぢや、それぢやにお前の部
屋には何にも風穴があつていかんやうぢや、それが大部お前の氣を腐して居るやう

ぢやの、何故風穴はないなど云ひ居つたのぢや、俺にはそれがよく判るんぢや、明
瞭と判るんぢやよ

ゴーリン子爵 それは私にも判つてます、仲々大したやつですよ何れ明日お伺ひし
てお話しませう、其時こそは何んなお話でも承ります、外套をお着せ申しませう

か、

カバリーシヤム伯爵 否や俺は未だ歸らんよ 俺は今夜是非話して置かにやならん事
があつて来たのぢや、少し位無理をしても其の處置を附けて終ひ度いと思ふんぢや
まア其外套を下に置き、

ゴーリン子爵 それではさう致します、然し他の部屋へ行きませう（鈴を押して）
此部屋には大した風穴があるんです（フィツプス登場）フィツプス、喫煙室には火
が澤山あるかね

フィツプス はい、澤山に御座ります、

ゴーリン子爵 父上彼處へ参りませう、尊父のお噴嚏は眞實に甚い、
カパーシヤム伯爵 何でも好いぢやないかの、何時噴嚏をした所が好え、
ゴーリン子爵(言譯のやうに) それやさうに違ひありませんが唯御同情申したんで
す、

カパーシヤム伯爵 無駄な心配をしたもんぢや、然し世間によくある奴ぢや困る程
ある奴ぢや

ゴーリン子爵 眞實にさうです、世間の人に、もう少し同情がないと世の中も一層
煩ひが無くなつて好いんですが

カパーシヤム伯爵(喫煙室の方へ進みながら) それや屁理屈だ、俺は屁理屈は大嫌
ぢや

ゴーリン子爵 私もさうなんです、然し今ぢや何處へ行つても屁理屈計りなんです、
それや盛んな物で又それで社會が社會らしい色彩を現はして居ると云ふもんです

カパーシヤム伯爵(振り返り息子の顔を視入る、彼の叢々したる眉の下には瞳が光つ
て見える) お前は何時も俺の云ふ事が眞實に理解出来るかの

ゴーリン子爵(一寸躊躇して) 理解出来るかとも若し眞實に聽いて居れば……

カパーシヤム伯爵(憤然として) 若し眞實に聽けばか! 何て生意氣な青二才ぢや
らう(ブツ)云ひながら喫煙室に入る、入れ變にフィツプス登場)

ゴーリン子爵 フィツプス、今夜特別な用事があつて一人の婦人が来るからね來た
ら應接間へ通して置いて呉れ、解つたかい?

フィツプス はい、解りましたして御座ります、

ゴーリン子爵 フィツプス、重大な用事があるんだからね、

フィツプス はい、承知致しまして御座ります

ゴーリン子爵 何んな事があつても他の人を案内してはいけないよ

フィツプス はい、かしこまりましたござります、(鈴が鳴る)

ゴーリン子爵　ア、来た〜彼れに違ひない、自分で行つて来やう、(戸口に近寄らうとするとカバリーシヤム伯爵喫煙室より出で来る)

カバリーシヤム伯爵　おい〜、待つて居れや直ぐに来れるんかね

ゴーリン子爵(好加減當惑して)　一寸失禮します、今直ぐに行きます(カバリーシヤム伯爵喫煙室に歸る)　好いかね、フィツプス、最前の事覚えてお居で、彼の室へ御案内するんだよ、

フィツプス　承知致しましてござりまする、

(ゴーリン子爵喫煙室に入る、と従僕ハロルド、ケベリー夫人を案内し来る、彼女はラミヤのやう、緑色と銀色との衣裳、くすんだ薔薇葉色絹の縁とつたる黒縹子の上衣を着けて居る)

ハロルド　御夫人様お名前は……

ケベリー夫人(彼女に近き来るフィツプスに向ひ)　ゴーリン子爵はお居でとすかし

ら、お宅だと伺つて參つたんですが……

フィツプス　御前は今カバリーシヤム伯爵と御對談中ではござりまする、

(冷かな眼を光らしてハロルドに早く去れと眼配せする)

ケベリー夫人(自分に)　何て親孝行なんぢやう、

フィツプス　御夫人様、御前様が何卒應接間で少しの間お待ち下さるやうとの事でござりまする、直ぐお見えになります、暫く彼處でお待を願ひます

ケベリー夫人(驚いた様子で)　ゴーリン子爵はお待ち兼ねになつて居て下さつたんですね

フィツプス　左様で御座りまする、

ケベリー夫人　眞實に?

フィツプス　御前の仰せには若し御夫人がお出になつたら應接室へお通し申して置

けと云ふ事でござりました(應接間の戸口に至り戸を開ける)　御前様の御命令は何

から何迄それはお氣が届いていらつしやいました、

ケベリー夫人(自分に) 何んてお考深い方なんでしょうやう、不意な來客を用意萬端
手落なくお待ち下さるなんて近代の方だわね、(應接室に近寄り中を窺ながら)
獨身者の室つて殺風景なものね私が今に皆好くして上げるわ(フイツプス机上より
ランプを持來る) 否えランプなんか要りませんわ、餘り閃々して嫌や、蠟燭を點し
て下さいな、

フイツプス、(ランプを以前の處に置換へて) では唯今直ぐ持つて参ります

ケベリー夫人 餘り明るくない方が好いわ

フイツプス 蠟燭なら大丈夫でござりまする、(應接室に入り蠟燭に火を點す)

ケベリー夫人(自分に) 今夜何誰がお出でになるお約束なんだらう子爵を手に入れ
りや大したもんだわ、男つて女にかゝると意氣地のないものだが……又面白いやう
に引掛るもんだわね(室の邊を見廻し机に近寄り) 何て面白い室だらう、何て面白

い繪なんだらう、何んな手紙が來てるかしら(手紙の束を取上げて) まあ下らない
手紙ばかり、文附やら招待状やら借金の催促やら後家様からの手紙やら、誰が桃
色の紙でなんか寄したんだらう、中流社會の戀手紙の始り見たやうだわね然し戀な
ど云ふものは感情で始めるもんじゃないわ、思考で始つて協定で落着するもんだわ
(手紙を下に置き再た取り上げ) 此筆蹟は見た事あるわね……これはガートルード
様の御筆蹟よ、彼の方の事だから徹頭徹尾十誠のお凌ひ見たいなものに違ひない倫
理だの道徳だのつて紙一ぱいに御説教の焼直し見たいなものに相違ないわ、然し何
んな用事なんだらう 私の悪口かも知れないわ、何て嫌な人だらう(其を讀む)
「お頼みが御座います、貴郎を御信用します お伺ひ致たら存じます」
(占めたと云ふ顔付で其手紙を流らんとする 處へフイツプス入來る)
フイツプス 御夫人様、仰せの通り蠟燭を點けまして御座ります、
ケベリー夫人 有難う、(急ぎ立上り手紙を机上の銀飾付大吸墨筒の間に挟み隠す)

フィツプス 明るさは恰度宜しうござりまする一番好きさそうなのを持つて参りました、御前様がお召更の時お使になるのでござりまする、

ケベリィ夫人(微笑を浮べ) そんなら屹度好いでしやうよ
フィツプス(重々しく) 恐れ入りまする、

(ケベリィ夫人應接室に入る、とフィツプス戸を閉ぢ退場、間もなく戸開きケベリィ夫人出て来りてソツと机に忍び寄る、忽ち喫煙室より談聲聞えケベリィ夫人蒼白となり立竦み、談聲は次第に高まり彼女は唇を噛みつゝ應接室に復歸す)

(ゴーリン子爵及びカバリーシヤム伯爵登場)

ゴーリン子爵(要求するやうに) 父上、結婚するとなれば時機や場所殊に人物は私にお任せ下さるでしやうね

カバリーシヤム伯爵(痲痺に) それや俺の考へで定めるんぢやお前に任せて置いたら祿な事はせんからの、嫁の詮議は俺がやるでお前は黙つちよるが好い、お前の云ふ

事を聽いて居ると飛んだ目に會ふ、愛情計りの問題ぢやないからの、愛情など後から幾何でも起つて来るわい、

ゴーリン子爵 さうでしやうとも、結婚して二人がお互に嫌になつて来りや愛情も起つて来るでしやう、ね、(カバリーシヤム伯爵の上衣を着せる)

カバリーシヤム伯爵 然うぢやろ、但しそれは嘘だと云ふ意味で云ふんぢやぞ、今夜は何うしてそんな愚な事計り云ふんぢや、俺が云つたのは結婚は常識の問題だと云ふんぢや

ゴーリン子爵 然し常識的な女は面白い程色氣がなさ過ぎます、さうぢやありませんか 勿論人がさう云ふといふだけの事なんですが、

カバリーシヤム伯爵 色氣があつても無くとも女などに常識があつて堪るもんかの、常識は男の専有物ぢや

ゴーリン子爵 眞實にさうです、然し男子と云ふものは義侠心に富んだ者で常識な

ど云ふものはてんで用はないんです、然うでしやう？

カバリーシヤム伯爵 俺は常識でやつて居るんぢや、俺には常識以外何物もないんぢやよ

ゴーリン子爵 母上がさうお云ひでしたつけ、

カバリーシヤム伯爵 それぢやから母様も幸福と云ふもんぢや、お前も考へ無しで困るわい、

ゴーリン子爵 それやそんな事ありませんよ（暫時室外に去る、後ロバート、チルトン卿を伴ひ不興氣に入來る）

ロバート、チルトン卿 アイサー君、玄關で偶然出會ふなんて間が好い事だつた、

然し取次が君は留守だなんて云つたが變だと思つた

ゴーリン子爵 實は今夜少し取込があるので誰にも留守を使へと命じて置いたんだ
先程父が來たんだけれど矢張邪魔扱にされて行つたんだ、父もブツ／＼溢して居た

よ

ロバート、チルトン卿 さうか、然し僕には少し位優待してもよからう、君は僕の

無二の親友なんだからね、明日になると僕も皆から捨てられて君が唯一の親友になるかも知れない、妻が例の一件を洗浚知つて終つたんだよ

ゴーリン子爵 然うぢやないかと思つた、

ロバート、チルトン卿（彼を視入りながら） 君、眞實かい？ 何うしてそれが君に

判つた

ゴーリン子爵（逡巡した後） 否や何……唯君が這入つて來た時顔色が好くなかつた

からさ……して誰が彼んな事喋つたんだ、

ロバート、チルトン卿 ケベリー夫人が自分で喋つたんだ、今では妻も僕が最初不正直な悪行をやつた事砂の上に樓閣を建てた事私が小商人か何かのやうに折角委託された秘密を賣つて終つた事等を皆知つて終つたんだ、ラドレー卿が、私に欺され

た事も知らずに逝かれたのは不幸中の幸と云ふもの、だがそんな誘惑に掛りそんな陋劣な事をする位なら死んで居た方が好かつた(両手に顔を埋む)

ゴーリン子爵(間を置いて)　ヴェナから電報の返事は未だ来ないね

ロバート、チルタン卿(顔を上げて)　来た事は来た、今夜一時頃一等書記官から来たんだ、

ゴーリン子爵　具合は好さそうかね

ロバート、チルタン卿　餘り好い手掛も見付からんやうだ、反つて彼女は仲々社交界では好い位置に居ると云ふ事なんだそれでアーンハイム男爵が其遺産の大部分を彼女に與へたと云ふのも公然の秘密になつて居るんださうで其以外には何とも云つて来ないから今の處分らんよ

ゴーリン子爵　まさか探偵になる事もあるまい、

ロバート、チルタン卿　今時分探偵など云ふものは役に立たんよ、彼んな職業もモ

ウお終ひだね新聞が其代りをして呉れて居る

ゴーリン子爵　新聞社の探偵は大したもんだからね、

ロバート、チルタン卿　アイサー君、咽喉が乾いて仕方がない、鈴を鳴らして何か

取寄せても好いだらう、白葡萄酒とゼルツェル水でも……

ゴーリン子爵　好いとも　僕が鳴らさう(鈴を鳴らす)

ロバート、チルタン卿　有難う、アイサー君、何うしたら好いか薩張り判らなくなつて終つた僕も實際弱つたよ、君が唯一の相談相手なんだ　然も唯一の相談相手だなんて迷惑かも知らんが僕は實際君を絶對的に頼みに思つて居るんだ、頼みにしては悪いかね

(フィッブス登場)

ゴーリン子爵　ロバート君、勿論出来る丈けはするつもりだ、おい(フィッブスに

向ひ)白葡萄酒とゼルツェル水とを持って来て呉れ

フィッツプス はい、畏まりましたしてござりまする

ゴーリン子爵 それからね、フィッツプス

フィッツプス はい、何か外に御用で……

ゴーリン子爵 ロバート君、一寸失敬するよ、僕に命令する事があるから……

ロバート、チルタン卿 いや、關はずにやり給へ

ゴーリン子爵 先程の話ね彼女が来たらね、今夜急用があつて止むを得ず市外迄行つたと云つて呉れ 解つたらう？

フィッツプス 然し御前様、もう来てお居で、す御前様が彼の室へお通し申して居け

と仰せになりましたので彼處へ御案内してござりまする、

ゴーリン子爵 然うか、そんならそれで好い（フィッツプス去る）何て混雜だらう、

然し巧く切り抜けなければならん 關まふもんか壁越の説教をやつてやれたが危い仕事だな

ロバート、チルタン卿 アイサー君、何うしたら好いかね、僕の生涯も無茶苦茶になつたやうに思へる、實際星影も見えない暗夜に舵なしの舟を漕つて居るやうなものだよ

ゴーリン子爵 ロバート君、君は奥様を愛して居るだらう

ロバート、チルタン卿 それや世界の何物よりも愛して居るさ、僕は名譽心を第一にして来たがそれや間違ひだつた、世界で第一にすべきものは愛である事を今始めて覺つたよ、最も大なるものは愛である愛より外何物もないのだ、僕は妻を愛する然しもう晚い、僕は既に妻の眼には悪人なんだ、彼女の眼には見下け果てた奴なんだ、今となつては二人の間に大きな溝がある、アイサー君、彼女は遂に僕の舊惡を見付出した遂に見付出して終つたんだ

ゴーリン子爵 奥様は何か前に間違をやつた事はないかね 君の罪を赦さねばならないやうな何か無分別をした事はないかね

ロバート、チルタン卿 僕の妻が、ね？ 處が生憎無いんだ、彼女は人間の弱點が何だか或は誘惑が何だか一向御存知ないと云ふ完癖家なんだ 僕は他の者と同じやうに世間並の人間に過ぎないんだが彼女は馳け離れて善良な婦人なんだだから罪惡に對して同情がない——冷酷な嚴格な少しも容赦のない婦人なんだ、然しアーサー君僕は彼女を愛して居る、僕等二人は子供がない其故外に愛するものはないんだ又愛されるものもないんだ、子供があつたら一層同情を持つて呉れたかも知らんが神は子供を與へて呉れなかつた、彼女は僕の心を眞二つに切離して終つたんだ、——そんな話するのは廢さう——兎に角今夜僕は彼女に 獸のやうに思はれて居るんだ然しさう思はれても仕方ないんだ、罪人が聖人の前に出たら常も 獸のやうに見えやうよ 僕は自分の立場から又人間の立場から僕の云ふ丈の事は事實を云つてやつた、然しもうそんな話は止めにしやう、

ゴーリン子爵 奥様は赦すに違ひないよ、恐らく此瞬間に於て赦して居る、彼女は

君を愛して居るんだもの何うして赦さずに置けるものか

ロバート、チルタン卿 神よ赦し給へ！ 神よ赦し給へ！ (首を兩手に埋める) 然しアーサー君僕は未だ外に話したい事がある、

(フイツプス飲料を持ち入來る)

フイツプス(ロバート、チルタン卿に白葡萄とゼルツエルを渡し) お待遠様でござりました、白葡萄とゼルツエルを……

ロバート、チルタン卿 有難う

ゴーリン子爵 ロバート君、馬車で來ましたか

ロバート、チルタン卿 否や、俱樂部から歩いた、

ゴーリン子爵 ロバート君に私の馬車を用意するやうに……

フイツプス はい、畏まりました御座ります

ゴーリン子爵 失敬だがこれで僕別れるとしやう、

ロバート、チルタン卿　アイサー君、迷惑だらうがもう五分で好い此處へ置いて呉れ給へ　僕は愈々決心の臍を堅めたよ　今夜議會で何う云ふ態度を採るか見て居て呉れ給へ、亞然丁開鑿の討論は十一時に始る筈なんだ（應接室に椅子の倒れし音聞ゆ）彼れや何の音だ？

ゴリン子爵　何でもないよ

ロバート、チルタン卿　椅子の倒られた音に違ひない誰れか立聞きして居たんだな、

ゴリン子爵　否や何でもありやしない、其處には誰も居やしないよ、

ロバート、チルタン卿　否や誰か居るんだ、燈が點いて居るし戸が少し明いて居る誰か私の秘密をそつくり立聞して終つたんだ、アイサー君、何うしたんだ、

ゴリン子爵　ロバート君、君は興奮して居るんだから少し氣を落付けなくては行けない、誰も居やしないと云つたぢやないか、ロバート君、まア座り給へ、

ロバート、チルタン卿　彼處に誰も居ないと云ふのかい？

ゴリン子爵　然うだ、誰も居やしない

ロバート、チルタン卿　誓つて居ないと云ふんだね？（座る）

ゴリン子爵　然うだ、

ロバート、チルタン卿（立上つて）　アイサー君、それでは僕が行つて見て来る

ゴリン子爵　それや否かん、それや否かんよ、

ロバート、チルタン卿　若し誰も居ないと云ふんなら見に行つても差支ないぢやないか、アイサー君、僕に彼の室を見せて氣が済むやうにして呉れ、僕の秘密を誰も立聽して居やせなかつた事を確めさせて呉れ、アイサー君、君は些とも僕が遣り抜けやうとして居る事を察して呉れないんだね、

ゴリン子爵　ロバート君、これ丈は止して呉れ、僕が誰も居ないと云つたぢやないか、—それで充分ぢやないかね

ロバート、チルタン卿(室の戸口に走り寄つて)　それで充分な事があるもんか、僕は何うしても此室へ這入らなければ承知が出来ないんだ君は室に誰も居やしないと云つたぢやないか、それなら何故あつて僕に見ては不可と云ふんだ

ゴリリン子爵　神の御名の爲めに不可と云ふんだ、其處には誰か居る、然し君が會つて不可ない人なんだ

ロバート、チルタン卿　さうだらうと思つた

ゴリリン子爵　彼の室へ這入つては不可と禁ずるのだ

ロバート、チルタン卿　其處退いて呉れ、僕の一生は累卵の危きにあるのだ、其處に誰か居たつて構ふもんか、僕の秘密僕の恥辱を立聽した者が誰だかそれが知り度いんだ、(室内に入る)

ゴリリン子爵　さア大變、其處に居るのは彼自分の妻君なんだ、

(ロバート、チルタン卿輕蔑と憤怒の色を面に表はし戻り來り)

ロバート、チルタン卿　彼の婦人が此んな處に居ると云ふ事實に對して君は何う云ふ申譯を立てるつもりなんだ

ゴリリン子爵　ロバート君　僕は誓つて彼女に疾しい事はないと斷言する、彼は清淨潔白少しの暗い處もないんだ、

ロバート、チルタン卿　彼の女は毒婦なんだ下劣な女なんだ

ゴリリン子爵　其んな酷い事云ふもんぢやない彼女が來たのは君の爲めに來たんだ君を助けやうと云ふ健氣な心から來たんだ、彼女は君を愛して居るんだ誰君を愛して居る計りなんだ

ロバート、チルタン卿　君戲談にも程があるよ、彼女と君との情交に僕が何う斯うするもんか、君が好かつたら貰つて置き給へ、好い似合の夫婦だよ　彼の女は汚れた恥知らずな奴——所で君は嘔吐きの裏切者、恰度好い配遇だ

ゴリリン子爵　ロバート君、誤解されちや困る天に誓つてそれが誤解である事を斷

言する、それでも疑ふなら御兩人の前で立派に辯解して見せる

ロバート、チルタン卿 一步譲つてそれが誤解だとしてもさ、君は僕に對して嘘言を吐いたんだ 君は君の名譽に掛けて嘘言を吐いたんだ、

(ロバート、チルタン卿出で行く、ゴーリン子爵應接室の戸口に馳寄る、とケベリ夫人晴やかな興ありげな面持にて室外に出て來る)

ケベリ夫人(馬鹿町囃に會釋をして) ゴーリン子爵、御機嫌好う、

ゴーリン子爵 ケベリ夫人か！何の事だ！ 此處で何をして居たんです、

ケベリ夫人 唯立聽して居た迄の事よ、鍵穴から立聽するのは無性に好きなんです、立聽すると色んな面白い事が聞かれますわね

ゴーリン子爵 それは神意を誘惑する恐しい無法な言ぢやありませんか

ケベリ夫人 然し神意など云ふものは誘惑されない中に充分誘惑を退けるものです(上衣を脱るやう合圖をするゴーリン子爵それを脱り)

ゴーリン子爵 貴女がお出で下すつて恰度好い少し忠告したい事がある

ケベリ夫人 忠告などは眞平御免ですは、婦人に對して夕方に着けて出られる物

ならいざ知らず其他のものを下さるなんて禮儀を辯へないもんですわ

ゴーリン子爵 相變らず強情なんですわ

ケベリ夫人 エ、エ強情を通り越して居ますわ、私の強情も漸次經驗が積むに従

つて進歩しますものね

ゴーリン子爵 餘り經驗が積むと危険ですからね、煙草を差上げませう、倫敦貴婦

人の半分以上は煙草を喫ひますね 然し煙草なんか喫はない婦人達の方が私として

は好いと思ひますよ、

ケベリ夫人 恐れ入ります、然し私煙草は戴きませんの、私の仕立屋は煙草嫌ひ

でね、婦人の人生に對する第一の義務は仕立屋孝行をする事なんです、ねエさうで

しやう？ 第二の義務つて云ふのは未だ誰も見付けないんですの

ゴーリン子爵 貴女はロバート、チルタン君の手紙でも賣付けに來たんぢやないで
すか さうなんでしやう？
ケベリー夫人 エ、或る條件で貴郎にお上げしやうと思つて、何うして其れを御存
じでしたの？

ゴーリン子爵 何うしてつて貴女が御用向の事を少しも仰らないからですよ、其
手紙をお持ち下すつたんですか、

ケベリー夫人(座りながら) 否え、持つて参りませんの、私の衣服は仕立が好いの
で生憎衣袋がないんですもの

ゴーリン子爵 如何程でお賣になると云ふんです

ケベリー夫人 まあ英國の方にも似合はない理屈の解らない方ね、貴郎のお國では
銀行の小切手さへありや萬事解決が付くと思つて居らつしやる、けれどねアーサー
様私はお金なら貴郎より持つて居るのですよ、ロバート様が保管して居らつしやる

程多額お金を持つて居ますのお金など少とも欲しくないんですわ

ゴーリン子爵 それでは何が欲しいと云ふんです、

ケベリー夫人 貴郎は何故私をラウラと稱んで下さらない

ゴーリン子爵 其んな名前は嫌ひですもの

ケベリー夫人 貴郎は前に其名を崇め奉つたでせう

ゴーリン子爵 それやさうです、然しそれだから嫌だと云ふんです(ケベリー夫人

自分の側に座るやう合圖をする彼微笑みながら側に座る)

ケベリー夫人 アーサー様、貴郎は前に私を戀して下さつた、

ゴーリン子爵 さうです

ケベリー夫人 而して貴郎の妻になれと仰つた、

ゴーリン子爵 それは戀と云ふものゝ自然の結果です

ケベリー夫人 それにも拘らず貴郎はモートレーク卿がテンピの植物室で私に巫

山戯て居らしつたのを見たとか見ないとか云つて私を背負投げにしてお終ひになつた

ゴーリン子爵 確か私の辯理士が貴女から或る條件の下に凡て取計らつて呉れたと思つて居ましたかね

ケベリー夫人 あの時は私は貧乏でした而して貴郎の方がお金持ちでしたからね
ゴーリン子爵 全くさうでした、それだから私に戀して居るやうに見せ掛けてたんでしやう

ケベリー夫人(肩を聳かして) モートレーク老郷も話と云へば痛風と奥様の事計り私は實際二つの中何つちを話して居られるのやら薩張り見別が付きませんでした、然し随分お酷い事も仰つたやうでしたがアーサー様、貴郎も好い加減愚な方ですわね、モートレーク卿など一寸慰みにお相手したと云ふ迄の事ですよ、英國の田舎の日曜日に田舎家でよくあるやうな無性に飽々するお慰みの一つに過ぎませんわ、

ゴーリン子爵 然うでせうとも、多數の人がそんな事を考へて居るんです

ケベリー夫人 アーサー様私は貴郎を愛して居ました

ゴーリン子爵 ケベリー夫人、貴女は色事なんか兎角する柄ぢやない、貴女はいつもそんな事をやるには慇巧過ぎて居ました

ケベリー夫人 私は貴郎を愛して居たんですよ、して貴郎は私を愛して下すつた、さうでしたらう？ 貴郎は私を愛して下すつたんです、戀と云ふもの程不思議なものはありませんわ殿方が一度御婦人をお愛しになると其人の爲めには何んな事でもなさる、——但し時々秋の空とやらでお捨てになる……さうでしやう？ (自分の手を彼の手の上に乗せる)

ゴーリン子爵(速かに自分の手を引込めて) さうです、捨てる事以外の事なら何でもやりませす

ケベリー夫人(間を置いて) 外國で暮らすのも飽々しましたわ今度はまた倫敦で暮

して見たいと思ふんですの、何處か此邊に好い家は無いでしやうか客室がありやそれ好んですの、それに誰か英語の會話と愛蘭語の聽方を教へて下さる人があれば殊更好いんですの、其れ計りでなく私ももう粹をやつても好い歳になりました、私が昨夜チルタン様のお宅で貴郎とお會ひしてから、アーサー様私は熟々、若し私が誰かを意中の者と思つた事があるなら、貴郎こそ眞に私の意中の人だつたと考へましたわ、で若し貴郎が私と夫婦になつて下さるなら其曉にこそロバート様のお手紙を差上げますわ、これが御相談なのです、若此處でお約束下されば直ぐにでもお渡しますわ、

ゴーリン子爵 直にでも？

ケベリー夫人(微笑しながら) 明日にでも

ゴーリン子爵 眞實に眞面目で云つてるんですか

ケベリー夫人 眞面目の談ですとも

ゴーリン子爵 然し餘り好い旦那様でもありませんよ

ケベリー夫人 好い旦那様で無くとも關ひませんわ、私は二人も餘り好い旦那様でないのを持つたんですよ、けれど其方が面白うございましたわ

ゴーリン子爵 貴女は男子を弄んだと云ふんでしやう

ケベリー夫人 私の結婚生活を御承知ないのですか

ゴーリン子爵 それは知りませんが書物のやうに讀めました

ケベリー夫人 何んな書物のやうに

ゴーリン子爵(立上り) 民數紀のやうに

ケベリー夫人 貴郎のやうな方が婦人にそんな醜な事を仰つて好いと思召す？

ゴーリン子爵 處が貴郎のやうな婀娜な方には防ぐ一方では追付ませんからね、ド

シ〜攻付けてやらなけりや

ケベリー夫人 御上手を仰い、アーサー様、女と云ふものは殿方と違ひましてお

上手に浮と隙を見せるやうな事はありませんのですよそこが男と女と違ふ處なんです

ゴーリン子爵 さうですとも 私の知つてゐる限りでは婦人と云ふものは仲々以て一筋綱にゆかぬ代者です

ケベリー夫人(間を置いて) それぢや貴郎は此私と夫婦になるより彼の貴君と一番仲好なロバート様が破滅に陥つた方が好いと思召すんですの? 私だつて餘り捨てたもんでもないでしやう、アーサー様、私は貴郎が大に俠氣をお出しになつたと思つて居ましたがさうでもないですわね、然し此場合俠氣を出してロバート様をお救ひ申すのが眞實でしやう然うすりや貴君は後生を善い思出に過せると云ふもので

ゴーリン子爵 それや爲る丈の事は爲て居るつもりです、然し自個犠牲など云ふものは法律で禁壓すべきものです、人を犠牲になどする人は漸次心が腐つて行きます

からね、其様な人はいつも悪人になるに決つて居ます、

ケベリー夫人 自個犠牲に限らず何でもロバート様の心を腐らす事は出来ましたよ

貴郎は私がロバート様の本性を知つて居ると云ふ事をお忘れになつたんですか?!

ゴーリン子爵 貴女が知つてゐる事は彼の人の本性ではないのです、それは彼が若い時代にやつた間違に過ぎないので、不名譽な恥洒しな彼にも似合はない……さうですともそれに違ひはありません、だから彼の本性ではないのです

ケベリー夫人 殿方と云ふものはお互に好く肩の持合ひをなさるものね

ゴーリン子爵 婦人と云ふものは好く下らぬ事に盾を衝合ふもんですね、

ケベリー夫人(悪々しげに) 私は唯一人の方に盾を衝く計りですの、ガートルード様と云ふ方よ 私は彼の方が憎らしくつて、今迄より一層憎らしくつてならないんですの

ゴーリン子爵 それは貴女が彼の人の生涯に或一つの悲劇を投げ込んだからなんで

しやう

ケベリー夫人(嘲笑を以て) それや女の一生には唯一つの悲劇がありますわ、過去の半生は戀苦勞と云ふもの後の半生は旦那苦勞と云ふものです

ゴーリン子爵 チルタン令夫人はそんな經驗御存じないんです

ケベリー夫人 七時四分の三位な手袋を箆めて御座る御婦人は餘り世間の事を御存じないものです、あのガートルード様などは未だ七時四分の三の手袋をお使になつて居るのを御存じでしやう、これが私……これが私……これが私にあのガートルード様に對して同情がない理由なんです、……アーサー様私此ローマンテックな會合もこれでもうお終ひだと思つて居ますの、ねエー此會合をローマンテックだと云つても差支えはないでしやう、貴女の奥様になる爲めには私の外交的手腕を拂ふに最も大切な物を貴公の前に投げ出して少時も惜しいとは思ひませむ 貴公は私と結婚するのは嫌だと仰るのでね そむならそれでよござんす、ロバートさんが私の亞然丁

計畫に肩を入れて下さらなければ彼人の事を素抜ぬいてやりますから…… 是れ丈け御談して置けば好いのです

ゴーリン子爵 左様な事をされては困ります、夫は怪しからむ不埒だ暴虐だ

ケベリー夫人(肩を聳かして) オット左様に大げさな事は云はないで頂戴 極く小さい事なんです商業上の懸引なんですから 其處へ人情何にか考えては居られませんか 私はロバート様に何か賣付けやうとして居るのです 私に相當の報酬を出さなければ止つと澤山の報酬を世間に拂はなくてはならないのですよ もう云ふ事は別にございませむから——御暇致します左様なら御機嫌好う握手をして下さらないこと?

ゴーリン子爵 貴女と? いやいや夫は出来ませんロバート、チルタン君と貴女との御相談は嫌な時の嫌な御相談でしやう 然るに貴女は今晩私の處に情事の御相談に居らした 貴嬢が愛なむて云ふのは汚らしい 貴嬢に戀の花なむか永遠に咲きこ

わありません 其貴女が午後ある非常に氣高い大人しい夫人の許へ行つて其夫を
中傷し夫に對する愛を傷けようとし 其心に毒矢を投げつけ其生涯に痛ましい思を
させ 夫に對する崇拜を毀ち のみならず云はゞ其靈を汚辱して終つた夫は許し
難い事です、戦慄すべき事です、決して許す事はならぬ

ケベリー夫人 アーサー様夫は御無理ですわ決して左様な事はありません 私はガ
ートルード様を罵るツて左様な心は毛頭ないのです彼處へ行く時は何も左様な考
はなかつたのです 私はマークビイさんと昨夜落した寶石の飾がひよつとしてチル
タン様の御邸内に落ちて居はしなかつたかと思つて御訪ねしたまでの事です、貴公
私を疑ふならマークビイさんにお尋ねになつてもわかりますわ、マークビイさんが
御歸になつてからガートルードさんが無愛想で嘲弄なさるものですから私もつひ賣
言葉に買言葉で毒吐いて終つたのです、私が御訪ねしたのは全くの處ダイヤモンド
の首飾がありやしないかと思つたからなんです……それは少し位は御氣に障る事が

あつたでしやう毒心もあつたんですからね是が事の起因なのです

ゴーリン子爵 紅玉の付いた金剛石蛇形の首飾ですか？

ケベリー夫人 エ、さうなんです何して夫を御存知なのです

ゴーリン子爵 どをして私が見付けたんですもの私がそれを見つけて歸ると
きそれを玄關番に云つとくの忘れてしまつたんです、机の傍に行つて引出を開け
る、是の引出に入れた筈だが、いやさうじゃない、アー是處にあつた、是でしやう
(首飾を差出す)

ケベリー夫人 それです、それですアー見付かつて嬉しい事、夫は好い人から貰つ
たのですよ

ゴーリン子爵 御着けになりませむか

ケベリー夫人 貴郎が着けて下さるなら(ゴーリン子爵急になれ腕につける)
貴郎は何故それを腕につけるのです私は其が腕飾になるとは少しも知りませんでし

たわ

ゴーリン子爵 眞實ですか

ケペリー夫人(彼女の腕を差し出して)

眞實に知りませんでしたでしたが腕飾にしても好

いものですわね

ゴーリン子爵 さうですとも以前見たときより幾程好いか知りませむよ、

ケペリー夫人 貴郎以前つて何時御覧になつたのです

ゴーリン子爵(静かに) 十年前ですよ、パークシャイヤ令夫人が着けて居ました、

それを貴女が盗つてしまつたんでしやう

ケペリー夫人(驚ひて) 何とおすしやいます

ゴーリン子爵 たゞ私の従妹のメリーパークシャイヤから夫を取つたと云のです、

彼女が結婚した時私が夫を御祝いに贈つたのです、夫が失くなつた時には可愛想に嫌疑が下女にかゝつて不面目にも彼女は邸から逐ひ出されてしまつた、私は昨夜そ

れを見て正しくパークシャイヤの盗まれた品だと気がついたので、私は誰れが盗むだかそれが判る迄何も其事を云ふまいと思つて居たのです、私は今其盗賊を見付けて其白状を聞いて終つた

ケペリー夫人(頭をふり起して) それは間違ひです、

ゴーリン子爵 それに間違ひはありません今現に貴女の御顔にさう書ひてあるぢやないですか

ケペリー夫人 私は何な事があつても總てを否定します、私は決して斯な嫌な物を見た事もなければ持つた事もありません、

(ケペリー夫人腕輪を外そうふと藻掻いたが取れない、ゴーリン子爵は夫を面白がつて見る、彼女の細い指は空しく飾を掻きむしる、終には自暴氣味になつて)

ゴーリン子爵 物を盗むだ弱身にはそれが何う云ふ仕掛になつて居るか知らないでしやう 貴女は、バネが何處にあるか知らない以上夫を外す事は出来ないので何う

です何處にあるか分りますか？夫を採すには一寸面倒ですよ

ケベリー夫人 獣物!!! 卑怯者!!! (再び腕輪を外さうとする然し無益に終る)

ゴーリン子爵 オット左様に大げさな事は云はないで下さい、極く小さい事なむです

ケベリー夫人(激怒して再びわけのわからぬ事を云ひながら腕飾を掻きむしる、後断然してゴーリン子爵を見つめ) 何する積りなのです

ゴーリン子爵 私は鈴を鳴らして僕を呼うと思ふんです彼奴 氣が利ひた奴で常も鈴を鳴らすと早速やつて来ますよ彼が来たら巡査さん呼びにやるんです

ケベリー夫人(慄えながら) 巡査ですて、何のために〜巡査なんか呼ぶんです
ゴーリン子爵 明日あたりはパークシャイヤが貴嬢を告發する そのため巡査を呼ぶんです

ケベリー夫人(今では恐怖に身を悶え 顔を歪め 口を捻め 強慢の態度も何處へや

ら 其瞬間見るも恐ろしい形相になつて) 御願ひです、それは止して下さい、

其代り貴郎の仰る事は何でも 何んな事でも屹度致します 屹度致しますから赦

して下さい

ゴーリン子爵 それではチルタン君の手紙をお出しなさい

ケベリー夫人 マー待つて下さい待つて下さい 少し考えますから

ゴーリン子爵 何むでも好いからチルタン君の書類をお出しなさい

ケベリー夫人 私此處には持つて来て居ません、明日屹度御渡し爲ます

ゴーリン子爵 嘘言を云つてはいけません 今直に御出しなさい(ケベリー夫人手紙を衣袋より引出しゴーリン子爵に渡す 彼女の顔色恐ろしき程蒼白となる) 是で

すか?

ケベリー夫人(しわがれた聲で) 其です

ゴーリン子爵(手紙を取り一通り讀むだ後嘆息しながらランプの火にてそれを燃す)